

6 資料集

- ・市民の皆様からお寄せいただいた『エピソード』と『写真』です。
- ・図書館の責任において、若干の編集を施させていただいたことをお断りいたします。
- ・お寄せいただいたエピソードと史実との照合はいたしておりません。



(1) エピソード一覧(テーマ別)

- ・81～96頁で、エピソードのご提供者の別に掲載しています。
- ・提供者欄に「参加者」とあるのは、パネルディスカッションへ御参加いただいた皆様からお寄せいただいたエピソードです。提供者別の頁へは掲載しておりません。

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
1	吉田新田	吉田新田は開拓から400年になるが、横浜は開港からまだ150年で、横浜は孫みたいなもの。江戸の大火で材木商として財をなした吉田勘兵衛が、仕入れで通る横浜に目をつけ、幕府に埋め立てを願い出たのが吉田新田の始まり。将軍も吉田新田に鷹狩りにきていたらしい。		ク	86～87
2		震災後、野毛大通りの道幅が広がった。その時家の土地を無償で提供した。		カ	84
3	震災	震災後2年経ってから生まれたが、当時は震災で怪我をした人が身近にかなりいて、震災が現実の問題だった。		ク	86～87
4		「復興小学校」というものが横浜にもあった。また、野毛坂下ったところに「復興アパート」があった		テ	96
5	野毛山プール	野毛山にはプールがあって、50mもあるプールで、まわりがコロッセオみたいになってるんだけど、そこでプロレスの興行とともにやってたなあ。遠藤幸吉っていう力道山のパートナーの事務所が近くにあって、遠藤幸吉もそこで興行やってたなあ。 そのプールは大会とかにも使えるような立派なプールだったんだけど、叶屋のもう亡くなった御主人がそのプールで泳いだことがあるって自慢に言っていたな。	1949年(昭和24)年 噴水池として野毛山公園プール誕生	ウ	81～82
6		野毛山のプールには10mの飛び込み台があった。子供は一番上の段からの飛び込みは禁止されていたが、競って高いところから飛び込んで遊んだ。		ツ	95～96
7		野毛山公園のプールには、主人が息子を連れて行っていた。水泳大会のアナウンスが聞こえてくると、夏が来たと感じた。		イ	81
8	野毛山	正月には門松をたてたが、正月明けに雪が降ると、門松の竹を二つに割ってスキー板にした。それで野毛山を滑った。		キ	85～86
9		野毛山のあたりは、昔官庁街だった		テ	96
10		野毛にはパチンコ屋さん（モナコ、ホームラン）とか映画館とか遊ぶ場所がたくさんあったな。遊びと食事は野毛が一番って感じだった。 今のJRAは吉本劇場や国際劇場っていう映画館だったんだ。		ウ	81～82
11	野毛	映画館って言っても、当時は映画だけじゃなく、歌謡ショーとともにやってたんだ。そこで美空ひばりはデビューしたんだよ。		カ	84
12		今JRAがある場所は、戦前は憲兵司令部だったが、その後、マッカーサー劇場・国際劇場となり、今では180度イメージの違う建物になった。		キ	85～86
13		有隣堂や、マッカーサー劇場、国際劇場があったのを覚えている。金物店を営んでいたが、店に美空ひばりがスリッパを買いにきたことがある。		テ	96
14		美空ひばりはデビューした劇場がこの辺りにあった（今のJRAか？）。美空ひばりの像がある辺りなのか。			参加者
15	娯楽施設	伊勢佐木町3丁目辺りには両国屋（喜楽座）や賑座があり、東京でやるような芝居を伊勢佐木町で見ることが出来た。 また、デパートの前身である勧工場が芝居小屋の下にでき、だんだん独立した勧工場ができてきた。	1880(明治13)年 賑座開業 1899(明治32)年 喜楽座(前身は両国座)開業 1911(明治44)年 オデヲン座開業	工	83
16		明治になって、芝居小屋が映画館に変わっていった。 特に戦後は映画の絶頂期だった。オデヲン座は洋画の封切館（封を切って一番に放映する映画館）だった。 賑座や両国屋も東映、松竹、ピカデリー座などに変っていった。		工	83
17	伊勢佐木	明治7年に埋めたてが完了し、羽衣町にあった芝居小屋、寄席、的に矢を打つ遊び場などが伊勢佐木町に移ってきた。 このエンターテイメント施設と松坂屋の跡地にあった常清寺を目当てに人がどんどん集まってきた。		工	83
18		「昭和10年頃のハマの活弁時代の想い出」 概要：石崎町という市電の停留所があり、その前に日本館という映画館があった。小学校6年生であった昭和10年、母親と一緒に見に行った。日本館は無声映画が主力で、スクリーン横には弁士が立ち、スクリーンと客席の間には楽師たちのスペースがあった。 日本館がある通りでは大都映画の撮影の控え所になる店があり、大都映画巣鴨撮影所のトラックが毎日のように止まっていた。俳優たちが自宅の店によく煙草や切手を買い物に訪れた。		ス	91

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
19	伊勢佐木	伊勢佐木町周辺にたくさんあった映画館が思い出として残っている。		参加者	
20		明治32年、大きな火事があつて辺り一帯焼け野原となつた。その結果、伊勢佐木町には大きな道が出来た。この頃に、伊勢佐木町はエンターテイメントの街から商売の街に変わっていく転換期を迎えたように思う。	1909(明治42)年 野沢屋呉服店、伊勢佐木町支店開業	工	83
21		伊勢佐木町に野沢屋、松屋（元町で呉服屋として出てきた）という大手企業が進出してきて、商売の街に変わってきた。 その後、震災まで伊勢佐木町は商業地となつた。	1953(昭和28)年 接收解除後、「野沢屋」として開業	イ	81
22		戦後は、伊勢佐木町にも遊びに行つていた。野沢屋さんのマークが丸だったので、「いりく」と呼んでいた。		ケ	88
23		松坂屋には、従業員も入つたことのない秘密の部屋があつた。お客様からは見えない、バックヤードにあつた。松坂屋は増改築を繰り返していだために、そんな部屋が出来た。		ケ	88
24		松坂屋の建物は、歴史的建造物のため、外壁沿いに足場を作つて、壁面落下防止の作業を行つた。その際に間近に外壁を見たが、装飾は素晴らしい、落下物を記念にもらつたりした。		ケ	88
25		自分が伊勢佐木で働くうと思ったのは、小学校の頃、母親に連れられて、一度だけ「野沢屋」に来たことがきっかけ。その時の野沢屋の店員さんがとても親切で記憶に残り、伊勢佐木の百貨店に勤めることになつた。		ケ	88
26		家族で伊勢佐木町や中華街に食事に行つた。		参加者	
27	娯楽施設	父親の代から、曙町で「岡野乾物店」という食料品店をやつていた。砂糖や小麦粉を扱つていて、「みのや本店」にも卸していた。		サ	89~90
28		伊勢佐木の商店をマス目にした双六（昭和10年発行）にも店の名前が載つていて、それが家に飾つてあつた。 戦争中はみんな配給切符を持って、買い物にきていた。			
29		昭和20年の終戦まで、商業の独壇場だった。横浜唯一の商店街だった。昭和30年に接收が解除され、ビルがどんどん建つた。平沼市長から、「古くて新しい町」と呼ばれていた。		工	83
30	吉野町	昭和30年から昭和40年の間に横浜駅の西口にダイヤモンド街などができる、発展してきた。こういう風に各駅のまわりが発展していって、商業が一極集中から分散型へと変わってきた。分散することで、伊勢佐木町の力が弱まつていった。			
31		平成7年に元コトブキヤだった松屋が馬券売り場になつた。 また、イセザキモールにパチンコ屋が出来、良く捉えればエンターテイメントが復興した。イセザキモールの通行人は元町より1時間当たり1000人通行人が多い。		工	83
32		今は松坂屋がないのに人通りがある。今年の12月末に松坂屋の生活館がオープンしたら、もっと人通りが増え、活気づくだろう。イセザキモールは、全国で唯一の終日歩行者天国の場所。		工	83
33		伊勢佐木の商店街のDNAは変わらない。伊勢佐木町は、イベントを多く行い、人を集める。埋立地だったため、人を集めて地を踏み固めていた頃に始まり、見世物小屋で人が集まれば飲食店も増え、自然に商店街となつた。コンサートや寄席というようなイベントは今も多く、町本来の生き方をしているのが伊勢佐木。ユニクロ等の進出から、ビジネスチャンスとしての伊勢佐木の活力も証明されている。		ケ	88
34		昭和10年の生まれで、小さい頃子供たちはみんな伊勢佐木町のあたりを裸足で走り回つていた。		カ	84
35		小さい頃、吉野町の市場まで、さつま揚げなんかを買いにお使いに行っていた。		カ	84
36	戦争	カンカン屋などの肉体労働者の人たちが、路上でヒロポンを注射していた。戦後しばらくは麻薬や壳春の黄金地帯などと呼ばれているような地域もあつた。		ク	86~87
37	北方町	末吉町は、西洋野菜の発祥の地である。		ク	86~87
38	北方町	北方町に松島館という芝居小屋があり、小学校四年くらいの時初めて、曾祖母さんと一緒に芝居を見に行つた。		コ	89
39	野毛	野毛に憲兵隊隊長などの官舎があつた。		カ	84
40	野毛	小学校時代、都橋の向こうに見えたカマボコ兵舎が強く印象に残つてゐる。		カ	84

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
37	野毛	「野毛山公園で占領軍兵士に人形を売る」 概要：昭和20年10月ごろ。占領軍兵士が日本の美術品などを言い値で買つてくれると聞いた当時10歳の私は母と二人で野毛山公園に人形を売りに行った。公園の広場は物を売る人、空腹の日本人などでごった返していた。		チ	94
38		横浜には運河が縦横無尽にはしっていた。中村橋のところにある山の土を使って1859年に港を埋め立てるときに土を運ぶのに運河を使うなど、運河あっての横浜の港だった。 吉田橋 の下も、昔は運河だった。吉田橋の下の運河を埋め立てるのに神奈川宿と保土ヶ谷宿から野毛の切通しを通って人足が集まつた。吉田町は人足町として栄えた。有隣堂も吉田町にあった。		エ	83
39	伊勢佐木	空襲の数日後、疎開先の小田原より横浜に入った。川の水が流れなくなるくらい死体が散乱していた。焼夷弾から逃れるため川に飛び込んだが、絶壁の河岸を登れなかつたのではないか。ぼつぼつとビルが焼け残っていたが、あたり一面が建物がなく、長者町に立つと港まで見通すことができた。		ク	86~87
40	伊勢佐木	伊勢佐木町の角のあたりに下士官用の慰安施設があり、その周りに娼婦が集まつてきていた。米兵たちは、わらじのような大きさの肉を食べていた。その食べ残しや缶ビールの飲み残しを拾い、川沿い（大通り）で食べている人がいた。		ク	86~87
41		将校用の施設として、伊勢佐木の不二家が接収されていた。		ク	86~87
42		伊勢佐木町の不二家は、横浜に来てはじめて入ったお店だった。			参加者
43		火事や震災、商業の分散などいろいろな危機があったけど、伊勢佐木町はそういう危機を力に変えていってどんどん発展した。		エ	83
44		伊勢佐木町1丁目には、朝鮮戦争で負傷した米軍の偉い人がかかる病院があった。そのために、伊勢佐木町に滑走路があった。		ツ	95~96
45	戦争	元町は、小さいころは今みたいにお店が多かったわけではないけど、オリジナルの商品を扱っているお店が多くて面白かった。 輸入のさいふや靴を扱っていたフクゾウ、帽子屋のウルベ、イギリスの輸入品を扱っていたポピー。ミハマで買った靴を履いて旅行に行ったときは、いい靴だって褒められたわ。やっぱり色々な国の輸入品があった。 川も交易の場でぎわっていたしね。三井物産の船から、不良品を譲ってもらったりもしてね。川もきれいだった。		オ	83~84
46	元町	元町にあった「大活」大正活映で、曙町出身（「岡野乾物店」）のオペラ歌手、紅澤葉子が俳優をしていた。 『横濱行進曲』という劇でこの紅澤葉子の役を、五大路子が演じていたこともある。	1920(大正)9年 大正活映開業	サ	89~90
47	本牧	マッカーサーがくると、まずあつという間に飛行場を作り、飛行場ができたと思ったら、カマボコ兵舎が作られた。接収された土地との境には金網が張られ、金網越しに米兵の生活が見えていた。子どもたちが金網の周りに集まつて、ギブミーチョコレートと言っていた。		ク	86~87
48	本牧	家の蔵がアメリカ兵に接収された。蔵の扉を壊して、中にしまつてあったカメラや兜、槍などを略奪していくのを金網越しに見ていた。交番に訴えてもどうにもならず、とてもショッキングな出来事だった。		ク	86~87
49	本牧	「あかざ、しろざ、残飯の想い出」 概要：昭和20年夏。空襲で焼け野原となった箇所に野草の「あかざ」、「しろざ」がたくさん自生していた。米の配給が十分ない当時、癖のない「あかざ」、「しろざ」を雑炊に入れて食べていた。 戦後、父が進駐軍の残飯を買って来た。当時、常に空腹だったため、ものすごくおいしく、こんなに美味しいものを食べているアメリカ軍と戦争をして勝てるはずがないと思った。		チ	94
50	本牧	東電に勤めていた父親が、終戦後米軍接収地だった本牧に変電所を作る工事に関わっていた。街中に高压線を通すというので、大変だったらしい。この変電所ができ、本牧では夜間照明のある米軍野球場等が始まった。		コ	89
51		本牧小港の米軍接収地が思い出になっている。			参加者
52		本牧に米軍のハウスがあった。			参加者
53		小港で海水浴ができた			参加者
54	戦争	山手 タイトル：「このような英語なら俺達でも話せる」 概要：昭和27年。山手のアメリカ人家族が住む白い家に若い日本人女性のメイドがいた。英語が話せるのかとか感心していつも見ていたが、ある日彼女がY e s, N o程度しか話せないのを見、この程度なら俺達でも話せると高校の同級生達と話した。		チ	94

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
55	山手	タイトル：「空襲警報と警察」 概要：昭和19年ごろ。空襲警戒警報が発令された、国民学校からの帰り道に、山手警察署に逃げ込んだが、巡査に追い出され、自宅の防空壕に入つた。なぜ警察署に避難していけなかつたのか、いまだに疑問である。		チ	94
56		マッカーサーの親戚が山手に住んでいた。そのおかげで山手に空襲がなかつたらしい。		ツ	95~96
57		山手付近を歩くと坂など雰囲気がよく、故郷の長崎を思い出す。		参加者	
58		大桟橋は横浜市に一番初めに返された桟橋。東神奈川付近には、「ノースピア」というまだ返還されていない桟橋もある。		ツ	95~96
59		小さい頃よく行った大さん橋。横浜に住んでいる人にとっては普通の風景だが、こういうものがないところに行くと、ああ珍しいものなんだなあと感じる。		参加者	
60		昭和39年から40年頃、港に船がいっぱいいで、港に入るために船が50日くらい待っていることもあった。		テ	96
61		横浜港はGHQが使うために開発された。		ツ	95~96
62		港 「横浜港を出港する最後の移民船「あるぜんちな丸」」 さすがにこのころの移民船は珍しく、この船が最後の出港となつた。ブラジルへの移民で若い夫婦が多かった。家族・親戚が抱き合つて別れを惜しんでいた。農業大学などの後輩は元気よくあちこちでエールを送つていた。		ソ	91~92
63	戦争 赤レンガ	赤レンガ倉庫は米軍の刑務所だったことがある。		テ	96
64	山下公園	米兵の子どもと友達になり、家に招待した。お返しに、山下公園にある高級将校の家に招待された。家の中はまさにアメリカという感じだった。クリスマスとか楽しみにしていたが、プレゼントを用意するのに苦労した。		ク	86~87
65	Y校	Y校に通っていた。帽子に校章のYの字が入っていたが、戦時は敵国の字ということで、「Y」ではなく「横商」という字を使っていた。		サ	89~90
66		Y校の5年生に上がる前に、縦上げ卒業となつて軍需工場に動員になつた。		サ	89~90
67		小学校に上がる前に横浜大空襲にあった。		参加者	
68	本郷台	本郷台のあたりは軍用の燃料倉庫が多かつた。弾薬庫もあつた。		ツ	95~96
69		横浜大空襲の時は、横浜の方の空が赤くなつてゐるのが国府津から見えた。		ク	86~87
70	桜木町事件	桜木町事件。電車が燃え多くの死者が出た。 この事件以後、独立していた車両1両1両が幌でつながり乗客が通り抜けるようになつたり、窓も大きく開くようになつた。 慰靈碑が桜木町駅の近くにあつたようだ。	1951(昭和26)年 桜木町事件 ※国鉄桜木町駅構内で電車の1・2両目が炎上し、106人が焼死した。作業ミスによつて架線が垂れ下がつていたことによる事故。	テ	96
71		桜木町事件のことをよく覚えている。90人~100人くらい亡くなつたのではないか。 そのとき小学校5年生だったが、当時はビルもなく、学校の教室や屋上から現場が見えた。		キ	85~86
72		野毛には鯨通りがあった (たくさん鯨料理の店が並んでいた)		テ	96
73	テ桜木町	桜木デパートっていうのが今のぴおシティの横にある駐車場にあつた。 2階建てで、1階には不二家があつて2階はバー街になつてたんだ。		ウ	81~82

テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
74	野毛山動物園の動物たちも、終戦の境のあたりに注射で殺された。		ク	86~87
75	昭和25年頃、野毛山動物園にいたハマ子が野毛を歩いたんだ。今にして思えば、港に着いたハマ子を運ぶ手段が無くて、港から野毛山までずっと歩いてきたんじゃないかな。 ちょうど見ていた自分をハマ子に乗せてくれたんだ。半ズボンはいてたんだけど、象の皮膚って固くてざらざらしてて、固い毛が生えてるんだよ。それがチクチクして痛かったなあ。	1951(昭和26)年 「野毛山遊園地」として野毛山動物園開園。ぞうのハマ子来園	ウ	81~82
76	ハマ子はインドから来た	1971(昭和46)年 野毛山動物園入口付近に歩道橋架設	ツ	95~96
77	昭和30年代、町田から遠足で野毛山動物園やマリンタワーに来た。 あの頃は、動物園といえば上野か野毛山動物園だった。	2003(平成15)年 野毛山動物園改修工事終了、全面開園	ツ	95~96
78	野毛山動物園に陸橋が出来た時、息子がテープカットをした。息子が幼稚園の頃で、野毛山幼稚園の子ども達でテープカットを見に行つた。 10年前の冬には、孫が野毛山動物園のリニューアルのテープカットを行つたから、親子2代で野毛山動物園のテープカットを行つたわね。		イ	81
79	野毛山動物園前の入口を憶えている。		参加者	
80	野毛山動物園に幼稚園の遠足で行き、象のバッヂをもらう		参加者	
81	露天商が昭和30年くらいまであったと思うが、当時は一番野毛が華やかな時代だったのではないか。なんでもそろうし、なんでもOKという感じだった。泥棒なんかもいて、家からなくなつた家具が家具屋にいくと売られていたりした。		キ	85~86
82	野毛には露天商がたくさんいた。道路の上に60件くらい並んでいたと思う。“おとりさま”を仕切っているのは“とび”だった。		ク	86~87
83	昔はいろいろな商売があった。呉服屋とか疊屋とか。露天商では靴とか洋服とか時計を売っていた。だんだん飲食店が増えてきた。今の大岡川沿いに靴屋が多いのは、露天商がなくなった時に靴屋がそこに移つた名残。		キ	85~86
84	野毛には大きい店ではなく、小さい商店が多くあり、自分で買い物用のかごを持って、商品を買って回っていた。おせんべやあめも一個ずつバラ売りしていた。 木造りのアーケードや露天商もあり、にぎやかだった。 露天商は、バスが通るときには邪魔になるので無くなってしまった。都橋の横の2階建ての建物に移り、今も残つてゐる。夜遅く露天商に遊びに行つたりして、楽しかつた。 食べ物も着るものも、やかん、鍋、日用雑貨も、野毛にいれば何でもそろつた。		オ	83~84
85	昔は露天商が野毛の大通りから都橋までずっと並んでいたが、それがなくなったのがこのあたりの一番大きな変わつたこと。 露天商には、食べ物以外のほとんどの物が売つてあつた。ジーパンとか洋服をよく買つて行つた。今にぎわい座が中区の税務署だったけど、露天商にはハンコも売つてあつた。もうなくなつたけど、横浜銀行野毛支店つていうのもあつた。露天商にはなんでも売つてあつて、どの世代の人も買つて行つてゐた。 露天商がなくなったのは、オリンピックの影響。		ア	81
86	昭和39年のオリンピックを機に、露天商を都橋沿いの建物に押し込めちやつた。オリンピックで世界中から人が来るのに、戦後を引きずりたくないなかつたんだろうと思う。露天商が並んでいた頃の町のイメージは「怖い、汚い、暗い」だから。 露天商が無くなつたことで、野毛に来るお客様が減つた。露天商が無くなることに反発した人たちもいたんだろうが、野毛のあたりにはやくざ者も多かつたから、そういう人たちの力もあって整備されてきたんだろうな。		ウ	81~82
87	露天に行けば、あらゆるもののが売つてあつた。野毛もにぎわつていて、村田家もいつだつて行列になつてゐた。あらゆるもののが野毛に集まつてゐた。その分、ヤクザ者も多かつた。		ウ	81~82

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
88	露天商	東京オリンピックのときに露天商を都橋の建物に押し込んでしまい、それで野毛の賑わいが減ってしまったと思う。		力	84
89		ヤミ市と屋台（オリンピックのため撤去された）が思い出として残っている。ザキと野毛にはずらつと並んでいた。		参加者	
90	図書館	受験勉強の図書館をよく利用した。当時はまだ古い建物だった。チラシの建物に見覚えがある。		キ	85~86
91		横浜市立現中央図書館に約60年前のノラクロのマンガを読みに来て楽しかった。		参加者	
92		中学受験の時、野毛の図書館を利用していた。席をとるために朝早くから並んでいた。本は貴重品で、当時は貸出はやっていなかった。		ク	86~87
93		野毛には、どうもろこしを持ち込むと、10円くらい？でポン菓子を作ってくれる店があった。		力	84
94		川で拾ったとうもろこしなどを、野毛の爆発屋でポン菓子にしてもらつた。		キ	85~86
95		小学校のころは崖をのぼったり、木登りしたり、たこ揚げをしたり。テレビがなかった。テレビがきたのは昭和39年くらい。力道山の試合なんかを、電気屋さんのテレビでみた。当時はまだ子どもで、前の方じゃないと見えない。早く行って、場所取りをしたりした。		キ	85~86
96		昔は風呂屋がいくつかあった。自宅に風呂がないので、みんな風呂屋にいった。風呂屋はコミュニケーションの場所だった。		キ	85~86
97		昔と言えば、昭和30年代半ばまで、野毛には馬車が来ていた。乗るためじゃなく、水洗トイレが無かったから、汲み上げた物を積みに来てたんだ。夏の暑いときに、ちょうど砂利からアスファルトに道を整備してたんだけど、ならしたばかりのアスファルトに馬が小便をするから、アスファルトに穴があいちやつたりしたのを覚えている。		ウ	81~82
98	野毛の様子	野毛に来たころ（昭和32年ごろ）は、野毛の大通りには食べ物やさんは會星樓（中華）しかなかった。今も残っているのは、會星樓とお茶屋の三河屋さん。他は、時計やとか金物屋とかがあったくらい。このあたりで古くからある店は村田家と松本薬局、かめや（寿司屋）。		ア	81
99		昭和26年ごろ氷の販売をしていた。ホテルニューグランドに納品をしていて、それが今でも続いている。		キ	85~86
100		野毛はお父ちゃん・お母ちゃんでやっている店が多い。お客様を大事にするし、お客様の話を聞いてあげたりする場所になっている。店の方も2代目、3代目と受け継がれていっているが、お客様の方も長く付き合って2代目、3代目になつたりしている。お客様と心でつながっている場所だと思う。		キ	85~86
101		草競馬の馬券場が日ノ出町の駅の辺りにあった		テ	96
102		昔は、日ノ出町と桜木町を結ぶ道路は村田家の前の野毛仲通り（当時は野毛駅前仲通り）だったんだよ。今でも、日ノ出町から桜木町までまっすぐ伸びているでしょ。		ウ	81~82
103		野毛には米軍も遊びに来ていた、チョコレートやガソリンとか売っていた。米軍は、野毛にそういうものを売って、そのあとMPとして取り締まりに来てたんだから、全くひどい話だよ。伊勢佐木町と野毛の間くらいに「根岸屋」っていう24時間営業のお店がある、舟で横浜に着いた船員たちが遊んでいたよ。外国人の人にとっても野毛は遊ぶ町だったんだよ。		ウ	81~82
104		あとは、野毛といえば旅館だね。旅館には2つの目的があって、一つは売春、もう一つは外国への移民のための宿泊所。移民の手続きには日数がかかることがあったからね。黄金町と日ノ出町の間にある山城屋さんなんてその一つだよ。		ウ	81~82
105		野毛浦という浦があったので、今でもウナギ屋が多い。		イ	81
106		昭和30年頃は、どこに働きに行っても、お米の登録証とお布団を持って行っていた。お米の登録証が人口調査をかねていて、お米屋さんが町内のことを探していたのよ。だから町にはお米屋さんはあるでしょ。		オ	83~84
107		今通りにあるマンホールは、家の井戸だった。今はN T Tが使っているが、井戸の内側の淵を囲う竹はそのまま残っている。		力	84
108		通っていた老松小学校の校庭はアスファルトだった。夏場は裸足で立っていると足の裏が暑く、足を踏みかえ踏みかえしていた。		力	84

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
109	野毛の様子	教育委員会主催で藏王にスキーに行く、「市民スキー」というものがあった。野毛や伊勢佐木町の仲間で問題を起こしてしまい、それ以来野毛地区の人間は出入り禁止になった。		力	84
110		食料が配給制だった頃、規制を受けない華僑が野毛に集まって料理屋をやっていた。		力	84
111		野毛には銀行が多かった。浜銀や帝国銀行、三和銀行、三井銀行。経済がしっかりしていたということだと思う。		キ	85~86
112		130年近く続いた「魚幸」は、野毛山の茂木惣兵衛の家や、山を越えた原三溪の家、病院などに仕出もしていた。 ラジオ関東によれば、大正8年10月には山田屋に対して、1860円の売り上げがあった。現在の価格では、2000万円くらいになるらしい。		力	84
113		ある冬、茂木惣兵衛がナスを食べたいと言い出したがなかなか手に入らず、魚幸に依頼がきた。店の若い衆が、鑑賞用のナスがあるのを見つけ、それを買ってきました。		ク	86~87
114	日雇い労働	昭和40年頃、桜木町から都橋にかけて日雇い労働者が集まる場所があった。人が多く集まるため、食堂や飲み屋がたくさんできた。日雇い労働者の日当は1500円くらいだったような（当時の公務員の月給が1万円）		テ	96
115		野毛には税務所や区役所があった。職安もあって、一日はたらいて240円とかだった。日雇いの仕事にあぶれた人が立飲み屋で飲んでたりした。		キ	85~86
116		日雇いの労働者はトラックに詰まれていき、船着場で荷運びをしていた。		キ	85~86
117		野毛には港湾関係の仕事を求める肉体労働者が集まっていた、そういった人たちのハローワークや飲食街になっていた。		ク	86~87
118	ダンス	昭和40年ごろ、「ハマジル（＝横浜ジルバ）」があった。横浜独特のダンスだった。		テ	96
119	遊園地	「全盛期の横浜ドリームランド」 敷地面積が一番広かったころの「横浜ドリームランド」。ここへ行くまでのモノレールも珍しかったし、大規模な施設にビックリしたものだった。私のお気に入りは水中を眺められる潜水艦。写真はゲートを入ってすぐの大花壇を見たもの。この日は平日で人出は少なかった。	横浜ドリームランド 1964(昭和39)年開園 2002(平成14)年閉園	ソ	91~92
120	桜木町駅	昭和40年代後半から昭和50年代にかけて、野毛がすたれてきた。三菱造船所が閉所したし、桜木町が終点じゃなくなったり、桜木町で降りる人が減った。駅と野毛がだんだん遠くなってきた。	1964(昭和39)年 根岸線桜木町-磯子 間開通	ウ	81~82
121		JRは桜木町が終点だった。みんな桜木町で降りて、野毛を通って伊勢佐木町へ行った。	1983(昭和58)年 三菱造船所閉所	キ	85~86
122		今の高島町のあたりが桜木町駅だった。碑が立っているのではないか？		テ	96
123	横浜駅	相鉄線の横浜駅は木造だった		テ	96
124		横浜駅西口には映画館が何館かあった		テ	96
125		横浜駅西口は石炭置き場だった。川があって、そこに石炭が積まれていた。		キ	85~86
126		横浜東口によく遊びにきていた。新橋から汽車に乗るのが楽しみだった。		参加者	
127		昭和39年頃は、野毛から杉田まで市電が通っていた。	1904(明治37)年 横浜電気鉄道により 開業 1921(大正10)年 横浜市が横浜電気鉄道を買収し、市電となる 1972(昭和47)年 市電廃止	オ	83~84
128		野毛には市電が走っていた。どこかへでかけるのはほとんど市電だった。		キ	85~86
129		市電は25円で野毛から杉田まで行けた。よく海水浴にいった。		キ	85~86
130		電車は桜木町までしかなかった。 杉田や蒔田へ行くには、市電に乗らなければいけなかった。		テ	96
131		野毛のあたりには市電が走っていた。生麦、杉田、前里町、洪福寺のあたりを走っていた。		ア	81
132	市電	市電の線路が途切れているところがあった。川沿いに路線が変わったためらしい。		サ	89~90
133		桜木町駅前に市電が集まり、不夜城のようだった。		参加者	

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
134	市電	「廃止直前の横浜市電」 交通渋滞の元凶のように見られ、全国各地で路面電車が次ぎ次ぎに廃止されていった。横浜でもこの年(1972年)3月31日でついに全廃されてしまった。同じくこの年、市営地下鉄伊勢佐木長者駅～上大岡間が開通した。		ソ	91～92
135		磯子に市電が走っていて海が見えた		参加者	
136		相鉄線は神中線（じんちゅうせん）という名前だった。神中線は砂利を運んでいた。砂利置き場は今の高島屋の場所。		テ	96
137		昔は海岸線を横須賀まで軍用物資を運ぶための列車が走っていた。単線だった。今もあるかはわからないが、山下公園に続く道に線路が残っていると思う		ツ	95～96
138	鉄道	市営地下鉄は初め、上大岡駅～伊勢佐木長者町駅間で開通した。 伊勢佐木の商店街は初め地下鉄に反対していたが、いざ駅ができるとなると、自分たちの名前も入れるよう要求したため、「伊勢佐木長者町駅」という長い駅名になった。	1972(昭和47)年 市営地下鉄開業	サ	89～90
139	鉄道	「閑散としていた新幹線「新横浜」駅前」 新横浜駅は開業してしばらく経っても、こんな状態が続いていた。駅前には広大なタクシー乗り場があり、タクシーが手持ちぶさたにしていた。遠くに「新横浜国際ホテル」だけがポツンと立っている。	1964(昭和39)年 東海道新幹線新横浜駅開業	ソ	91～92
140	鉄道	当初は地下の区間しかなかったので、薛田の杉山神社に大きな穴を掘って車両を下ろした。その頃はどうやって地下に電車を入れるかという漫才が流行っていた。		サ	89～90
141	横浜スタジアム	横浜スタジアムは、前は平和球場って呼んでたけど、球場下には卓球とか遊べる施設があった。 市役所もまだなかったから、あの辺り一面広場でね。5月のみなと祭には、バザーをやっていた。見世物屋も来ていて、お化け屋敷や食べ物の露店、ヨーヨーや鉛筆つかみもあって、とても楽しみにしていた。	1945(昭和20)年 横浜公園野球場は、アメリカに接収され「ゲーリック球場」と改称	オ	83～84
142	横浜スタジアム	現在の横浜スタジアムは戦後はゲーリック・スタジアムという名前で、夜になるとアメフトの試合をやっていた。 終わり近くになると無料で入ることができる席があったため、近所の子どもたちで、席に残った食べ残しの缶詰のピーナツを集めたりした。	1952(昭和27)年 接収解除され、市営の平和球場となる 1978(昭和53)年 横浜スタジアム開場	カ	84
143	大岡川	石炭とか、大岡川を利用して運搬している業者が多かった。		キ	85～86
144	大岡川	いまみなどみらいにある鉄橋は昔は貨物の通り道だった。そこから飛び込んで泳いだりしていた。昔は大岡川もきれいだった。		キ	85～86
145	大岡川	昭和28～35年までの風景・写真（大岡川周辺）を憶えている		参加者	
146	マリンタワー	子供の頃、マリンタワーに遊びに行った思い出がある。		参加者	
147	マリンタワー	マリンタワーへよく行った。外の階段を使って上ったこともある。		参加者	
148	マリンタワー	仕事場が閑内なので思い出深い。		参加者	
149	その他横浜について	海が埋立てられたことで途絶えていた奇祭・三〇〇年も続いてきた根岸八幡の祭りを、昭和六十年八月三十年振りに復活させた。担ぐ神輿は白滝不動の水で清めた柳の枝だけで造ります。		シ	90
150	その他横浜について	中学生（昭和50年代）の頃、森林公園でマラソン大会があった。		参加者	
151	その他横浜について	薛田公園の近くに寿警察署があった。今は市の施設になっていたよう…		テ	96
152	磯子	磯子の山の上は別荘地だった		ツ	95～96
153	磯子	プリンスホテルは皇后様の家の土地だった		ツ	95～96
154	磯子	磯子駅のあたりも海だった。産業道路あたりまでは海だった。あのあたりの漁師は埋め立てにあたって賠償金（立ち退き料？）をたくさんもらつただろう		ツ	95～96
155	根岸	昭和40年付近に、二歳の娘が根岸喘息と診断された。光化学スモッグなどが発生し、健康被害の話を聞くようになった。		シ	90
156	根岸	根岸の丘陵地にある根岸競馬場が接収解除された。競馬場を記念して馬事公園も作られている。		シ	90
157	根岸	町の人々の健康を支えてくれていた「横浜日赤病院」は「港湾病院」と合併、「みなど赤十字病院」と名を改めて、中区新山下に移転。病院の跡地には、三三〇戸を数える巨大なマンションが建った。		シ	90

	テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
158	その他横浜について	横浜 洋服は、既製品はあまりない時代だったでしょ。舶来ものを扱っている生地屋で好きな生地を買って、洋裁店に持つて行って、洋服に仕立ててもらっていた。 昭和33年当時、4000円のブラウスを、三愛で買ったわね。高島屋が出来る前ね。		オ	83~84
159		藤棚 藤棚商店街のあたり、現在さびれてしまったが、中学・高校時代の青春の思い出。季刊誌「横濱」にも取り上げられていたと思う。		参加者	
160		屏風ヶ浦 昔は、南太田から屏風ヶ浦や野毛山まで海水浴や遠足に行っていた。屏風ヶ浦まで歩いて行ったため、実際泳げたのは1時間ぐらいだった。		ツ	95~96
161		三溪園 三溪園裏砂浜での潮干狩りが思い出として残っている。		参加者	
162		三溪園 三溪園近くで潮干狩りをしたことが思い出として残っている。		参加者	
163	みなとみらい	みなとみらいが小学校だった。		参加者	
164		みなとみらいが少し前はさびしかったが、だいぶにぎやかになった。		参加者	
165		横浜博からのみなとみらいの発展が思い出となっている。		参加者	
166		みなとみらいが変わったことが思い出となっている。		参加者	
167		「大成功を納めた横浜博覧会」 概要：市政100周年・開港130周年を記念して、「宇宙と子どもたち」をテーマに横浜博が開催された。入場予測を上回る大人気で成功をおさめた。	1989(平成元)年 横浜博覧会開催	ソ	91~92
168		「建設中のランドマークタワー」 1989(平成元)年10月、横浜博覧会(YES'89)の終了とともに、その跡地に建てはじめたランドマークタワー。このころようやく姿を現はじめて、空高くどんどん伸びていった。4つのクレーンが建築の主役で、最後まで大活躍していた。	ランドマーク 1990(平成2)年着工 1993(平成5)年開業	ソ	91~92
169		露天商が消えてしばらくはまだよかつたが、その後伊勢佐木町のデパート、銀行が5、6年で一斉になくなってしまって不便になった。会社の横浜支店といつた馬車道にあるものだったが、この頃から横浜駅西口に移っていました。		ク	86~87
170		野毛の中区税務署もなくなった。中税の署長と言えば出世コースで、池田、佐藤、福田、大平などの歴代総理は20代の頃みんな中税の署長をやっていた。ノンキャリの副署長もここで無事署長を送り出すことができれば、自分も他の税務署の署長になることができた。		ク	86~87
171		今のにぎわい座の場所は、昔中区役所か中税務署だった		テ	96
172		今のにぎわい座の場所には税務署があったんだ。 野毛は物、金、人が集まって潤っていたから、銀行もたくさんあったし、税務署もあったんだ。横浜銀行の野毛支店とか、5つくらいの銀行があった。税務署は福田赳夫とか大平正芳とかが税務署長としていたことがある有名税務署なんだ。 にぎわい座ははじめは馬車道のところにあって、伊勢佐木に移り、そのあと野毛に移って来たんだ。	2002(平成14)年 横浜にぎわい座開業	ウ	81~82
173	税務署・にぎわい座	今のにぎわい座のところに横浜ニュース劇場があった。マンガもやっていたのでよく見にいった。大人も子どもも30円ぐらいじゃなかったかと思う。 マンガはディズニーとかで、トムとジェリーを見た覚えがある。力道山の試合もやっていた。一週間のニュースというのをやってたから、一週間に一回は通ったよ。	1947(昭和22)年 横浜国際劇場、マッカーサー劇場開業 1950(昭和25~)年代 ニュース劇場開業	キ	85~86
174		にぎわい座は、前は税務署でね。ニュース劇場やマリウス(レコード屋)もあって、野毛は本当に横浜で栄えていた。まだ横浜の西口にも何もなかつたからね。		オ	83~84
175	野球	「横浜ベイスターズ優勝パレード写真の笑い話」 概要：自分がパレードを写した写真に、神奈川新聞社のカメラマンが市役所の屋上から写真を撮っている姿が写っていた。神奈川新聞社のカメラマンが写した写真に、私の写真をとる撮影の姿が写っていた。お互いに写しあつたことになる。		セ	91

テーマ	エピソード	備考	提供者	参照頁
176	<p>東急線が廃止されることになってでてきた振興策の中に、大道芸があつた。野毛の人たちで、野毛の振興のために何かやろうって言って、昭和60年の春「野毛祭（のげさい）」を実施した。</p> <p>集まった人たちそれぞれの伝手で、絵を描く人、神輿、ジャズ、フリーマーケット、大道芸をやることになった。そしたら、この大道芸が大人気だったから、翌年からは大道芸で行こうって事になった。</p> <p>そもそも大道芸は、投げ銭をもらうから、道路での商売とみなされて、それまでは違法だったんだ。伊勢佐木警察署にも何度も掛け合ったけれどなかなか許可が出なかつた。人事異動で小田原から町興しにかかわってきた署長が異動てきて、そこでもう一度お願ひに行ったら許可がでたんだ。地元の協力あっての警察だから、警察も地元の力にならなくっちゃといつてくれた。</p> <p>こうやって、全国で初めての合法の大道芸は始つたんだ。今でも野毛大道芸は有名だし、最盛期には80万人の人が来つた。</p>	2004(平成16)年 横浜 - 桜木町駅 東急東横線廃止 1985(昭和60)年 野毛祭開催 1986(昭和61)年 野毛大道芸として開始	ウ	81~82
177	<p>東急線には、ざくばらんに人が来た。クリスマスイヴにケーキを持って、帽子をかぶつて訪ねてくるような町。おなじみさんが多くて、親子4代で通つていて、昔からのお客さんが多い。</p> <p>東横線が無くなつても、おなじみさんは通つてくれた。野毛手形をきっかけにいらっしゃる新規の方もいて、「野毛に来るとほつとする」と言つれる。</p>		イ	81
178	昭和50年代半ば頃に野毛から店がなくなり、人が減り、5つくらいあつた銀行が全部なくなった。昭和59年くらいだったかな。		ウ	81~82
179	このあたりで一番大きく変わつたのは、東横の桜木町駅がなくなったこと。当時商店街に10億円の補助金が出たり、駐車場が入つたりした。		ク	86~87
180	東横線が世田谷まで走つていて。電車に油がしいてあつて、ニキビにしみて痛かつた。すごく混んでいた。		キ	85~86
181	松坂屋で販売促進の仕事を担当しており、商店街とのイベントなどに多く携わつていて。閉店後とはいえ、松坂屋の前で路上ライブを行つてゐるのをほつとくわけにはいかないということで、「ゆず担当」が出来た。ゆずは、毎週日曜夜10時から、松坂屋前で路上ライブを行つてゐたので、正面柱の奥に待機していた。紅白に出る際は呉服を用意したり、「ゆずの地元」として取材を受ける中で、ゆずとの関わりが出来た。松坂屋でゆずグッズを販売したこともある。		ケ	88
182	<p>2003年には、松坂屋にゆずのモニュメントが出来て、12月には紅白で松坂屋の前でライブを行つた。紅白出場が決まり、松坂屋の前でライブをしたいという申込みがあつた。当然会場は伏せられていたので、締口令がしかれ、本当に31日の朝まで情報は出なかつた。NHKの中継車を見て人が集まり、ライブの際には人があふれる程だった。</p> <p>松坂屋では、屋内でゆずが通るところに「お帰りなさい」シールを貼つておいて、本人達も気付いてくれた。警察は有隣堂のベランダから警備指揮を取つた。</p>		ケ	88
183	2004年には、松坂屋の屋上に壁画を作成。これは、昔あつた伊勢佐木をプリントして残していこうという「思い出の中の伊勢佐木」という企画の一部で行われ、映画館の看板を描く技師さんが壁画を作成。		ケ	88
184	ゆずの壁画の前で出会つた、ゆづに励まされたというファンの親子に、松坂屋でのゆづとの関わりの話をした。後日、親子から手紙が送られてきて、人と人との出会いやつながりを感じた。		ケ	88
185	ライブハウス「CROSS STREET」は、ゆづに名前を付けて欲しいという声から、ゆづに命名してもらった。		ケ	88
	伊勢佐木商店街の人達は、ゆづに対して非常に礼儀正しいという印象を抱いていた。路上ライブをしている二人に対して、商店街で音響設備を買つてあげようか、ライブの際の交通整理など協力しようかという話もあつたが、ゆづのファンはマナーも良くその必要もなかつたため、見守つていてた。		ケ	88

(2) みなさまから寄せられたエピソード(提供者別)

ア もみじ菓子司舗 和菓子製造販売 西村さま

昭和32年から野毛に住んでいる。昔は露天商が野毛の大通りから都橋までずっと並んでいたが、それがなくなったのがこのあたりの一一番大きな変わったこと。露天商には、食べ物以外のほとんどの物が売ってあった。ジーパンとか洋服をよく買いに行った。今のにぎわい座が中区の税務署だったけど、露天商にはハンコも売ってあった。もうなくなったけど、横浜銀行野毛支店っていうのもあった。露天商にはなんでも売ってあって、どの世代の人も買いに行っていた。露天商がなくなったのは、オリンピックの影響。オリンピックがあるのに見栄えが悪いっていうことで、撤廃して、あの川沿いの2階建ての建物に全部入れられた。

野毛のあたりには市電が走っていた。生麦、杉田、前里町、洪福寺のあたりを走っていた。

野毛に来たころ（昭和32年ごろ）は、野毛の大通りには食べ物やさんは會星樓（中華）しかなかった。今も残っているのは、會星樓とお茶屋の三河屋さん。他は、時計やとか金物屋とかがあつたくらい。このあたりで古くからある店は村田家と松本薬局、かめや（寿司屋）。

もみじのお菓子は、昭和32年ごろと何も変わっていないといつてもいいくらい。

イ 福家 おかみさん

野毛山動物園に陸橋が出来た時、息子がテープカットをした。息子が幼稚園の頃で、野毛山幼稚園の子ども達でテープカットを見に行つた。野毛山動物園のプールには、主人が息子を連れて行つてた。水泳大会のアナウンスが聞こえてくると、夏が来たと感じた。10年前の冬には、孫が野毛山動物園のリニューアルのテープカットを行つたから、親子2代で野毛山動物園のテープカットを行つたわね。

戦後は、伊勢佐木町にも遊びに行つてた。野沢屋さんのマークが「兎」だったので、「いりく」と呼んでいた。昭和32年にお嫁に來た。野毛浦という浦があつたので、今でもウナギ屋が多い。野毛には、気軽に人が來た。クリスマスイヴにケーキを持って、帽子をかぶつて訪ねてくるような町。おなじみさんが多くて、親子4代で通つていて、昔からのお客さんが多い。東横線が無くなつても、おなじみさんは通つて來てくれた。今は、野毛手形をきっかけにいらっしゃる新規の方もいて、ありがたい。「野毛に來るとほっとする」と言つられる。息子の同級生の男の子たちは野毛に今でもいて、息子は町づくり会に参加している。先日、朝市をやってくじらの唐揚げをやつた。若い人が集まつてくれてうれしい。一国一城の主なので意見が合わないこともあるけれど、ぶつかりあつて、良いものが生まれる。

ウ 村田家 藤澤さま

昭和39年のオリンピックを機に、露天商を都橋沿いの建物に押し込めちやつた。オリンピックで世界中から人が來るのに、戦後を引きずりたくなかつたんだろうと思う。露天商が並んでいた頃の町のイメージは「怖い、汚い、暗い」だから。露天商が無くなつたことで、野毛に來るお客様が減つた。露天商が無くなることに反発した人たちもいただろうが、野毛のあたりにはヤクザ者も多かつたから、そういう人たちの力もあって整備されてきたんだろうな。

昔と言えば、昭和30年代半ばまで、野毛には馬車が來ていた。乗るためじやなく、水洗トイレが無かつたから、汲み上げた物を積みに來てたんだ。夏の暑いときに、ちょうど砂利からアスファルトに道を整備してたんだけど、ならしたばかりのアスファルトに馬が小便をするから、アスファルトに穴があいちやつたりしたのを覚えている。

露天に行けば、あらゆるものが売ってあった。野毛にもぎわっていて、村田家もいつだって行列になっていた。あらゆるものが野毛に集まっていた。その分、ヤクザ者も多かった。

昭和40年代後半から昭和50年代にかけて、野毛がすたれてきた。三菱造船所が閉所したし、桜木町が終点じゃなくなったから、桜木町で降りる人が減った。駅と野毛がだんだん遠くなってきた。

昭和25年頃、野毛山動物園にいたハマ子が野毛を歩いたんだ。今にして思えば、港に着いたハマ子を運ぶ手段が無くて、港から野毛山までずっと歩いてきたんじゃないかな。ちょうど見ていた自分をハマ子に乗せてくれたんだ。半ズボンはいてたんだけど、象の皮膚って固くてざらざらして、固い毛が生えてるんだよ。それがチクチクして痛かったなあ。

昔は、日ノ出町と桜木町を結ぶ道路は村田家の前の野毛仲通り（当時は野毛駅前仲通り）だったんだよ。今でも、日ノ出町から桜木町までまっすぐ伸びているでしょ。

野毛にはパチンコ屋さん（モナコ、ホームラン）とか映画館とか遊ぶ場所がたくさんあったな。遊びと食事は野毛が一番って感じだった。今のJRAは吉本劇場や国際劇場っていう映画館だったんだ。映画館って言っても、当時は映画だけじゃなく、歌謡ショーとかもやってたんだ。そこで美空ひばりはデビューしたんだよ。あと、野毛山にはプールがあって、50mもあるプールで、まわりがコロッセオみたいになってるんだけど、そこでプロレスの興行とかもやってたなあ。遠藤幸吉っていう力道山のパートナーの事務所が近くにあって、遠藤幸吉もそこで興行やってたなあ。あと、そのプールは大会とかにも使えるような立派なプールだったんだけど、叶屋のもう亡くなつた御主人がそのプールで泳いだことがあるって自慢気に言っていたな。

今のにぎわい座の場所には税務署があったんだ。野毛は物、金、人が集まって潤っていたから、銀行もたくさんあったし、税務署もあったんだ。横浜銀行の野毛支店とか、5つくらいの銀行があった。税務署は福田赳夫とか大平正芳とかが税務署長としていたことがある有名税務署なんだ。にぎわい座ははじめは馬車道のところにあって、伊勢佐木にうつり、そのあと野毛に移って來たんだ。

野毛には米軍も遊びに来ていて、チョコレートやガソリンとか売ってた。米軍は、野毛にそういうものを売って、そのあとMPとして取り締まりに来てたんだから、全くひどい話だよ。伊勢佐木町と野毛の間くらいに「根岸屋」っていう24時間営業のお店があって、舟で横浜に着いた船員たちが遊んでいたよ。外国人にとつても野毛は遊ぶ町だったんだよ。

あとは、野毛といえば旅館だね。旅館には2つの目的があって、一つは売春、もう一つは外国への移民のための宿泊所。移民の手続きには日数がかかることがあったからね。黄金町と日ノ出町の間にある山城屋さんなんてその一つだよ。

あと、桜木デパートっていうのが今のびおシティの横にある駐車場にあった。2階建てで、1階には不二家があって2階はバー街になってたんだ。

昭和50年代半ば頃に野毛から店がなくなり、人が減り、5つくらいあった銀行が全部なくなつた。昭和59年くらいだったかな。東急線が廃止されることになって、野毛に人を集めなければという事で振興策として、芝居小屋をよぶ話が出て来て、にぎわい座が税務署後にできたんだ。大道芸の拠点になるっていう話も出たんだけど、歌丸さんの力かな。

東急線が廃止されることになってできた振興策の中に、大道芸があった。野毛の人たちで、野毛の振興のために何かやろうって言って、昭和60年の春「野毛祭（のげさい）」を実施した。集まつた人たちそれぞれの伝手で、絵を描く人、神輿、ジャズ、フリーマーケット、大道芸をやることになった。そしたら、この大道芸が大人気だったから、翌年からは大道芸で行こうって事になった。そもそも大道芸は、投げ銭をもらうから、道路での商売とみなされて、それまでは違法だったんだ。伊勢佐木警察署にも何度も掛け合つたけれどなかなか許可が出なかつた。人事異動で小田原から町興しにかかわってきた署長が異動してきて、そこでもう一度お願ひに行つたら許可がでたんだ。地元の協力あっての警察だから、警察も地元の力にならなくっちゃといつてくれた。こうやって、全国で初めての合法の大道芸は始つたんだ。今でも野毛大道芸は有名だし、最盛期には80万人の人が来ていた。

工 むさしや津田商店 津田さま

伊勢佐木町はエンターテイメントから出発した。

明治7年に埋めたてが完了し、羽衣町にあった芝居小屋、寄席、的に矢を打つ遊び場などが伊勢佐木町に移ってきた。このエンターテイメント施設と松坂屋の跡地にあった常清寺を目当てに人がどんどん集まってきた。

伊勢佐木町3丁目辺りには両国屋（きらくや）やにぎわい座があり、東京でやるような芝居を伊勢佐木町で見ることが出来た。また、デパートの前身である勧工場が芝居小屋の下にでき、だんだん独立した勧工場ができてきた。

明治32年、大きな火事があつて辺り一帯焼け野原となった。その結果、伊勢佐木町には大きな道が出来た。この頃に、伊勢佐木町はエンターテイメントの街から商売の街に変わっていく転換期を迎えたように思う。伊勢佐木町に野沢屋、松屋（元町で呉服屋として出てきた）という大手企業が進出してきて、商売の街に変わってきた。その後、震災まで伊勢佐木町は商業地となつた。

横浜には運河が縦横無尽にはしっていた。中村橋のところにある山の土を使って1859年に港を埋め立てるときに土を運ぶのに運河を使うなど、運河あつての横浜の港だった。吉田橋の下も、昔は運河だった。吉田橋の下の運河を埋め立てるのに神奈川宿と保土ヶ谷宿から野毛の切通しを通つて人足が集まつた。吉田町は人足町として栄えた。有隣堂も吉田町にあった。

昭和20年の終戦まで、商業の独壇場だった。横浜唯一の商店街だった。昭和30年に接収が解除され、ビルがどんどん建つた。平沼市長から、「古くて新しい町」と呼ばれていた。昭和30年から昭和40年の間に横浜駅の西口にダイヤモンド街などができる、発展してきた。こういう風に各駅のまわりが発展していく、商業が一極集中から分散型へと変わってきた。分散することで、伊勢佐木町の力が弱まつていった。

平成7年に元コトブキヤだった松屋が馬券売り場になった。また、イセザキモールにパチンコ屋が出来、良く捉えればエンターテイメントが復興した。イセザキモールの通行人は元町より1時間当たり1000人通行人が多い。今は松坂屋がないのに人通りがある。今年の12月末に松坂屋の生活館がオープンしたら、もっと人通りが増え、活気づくだろう。イセザキモールは、全国で唯一の終日歩行者天国の場所。

火事や震災、商業の分散などいろいろな危機があつたけど、伊勢佐木町はそういう危機を力に変えていってどんどん発展した。

明治になって、芝居小屋が映画館に変わっていった。特に戦後は映画の絶頂期だった。オデヲン座は洋画の封切館（封を切つて一番に放映する映画館）だった。にぎわい座や両国屋も東映、松竹、ピカデリー座などに変つていった。

オ 泰華樓の店員さん

昭和39年頃は、野毛から杉田まで市電が通つてた。大きい店はなく、小さい商店が多くあり、自分で買い物用のかごを持って、商品を買って回つてた。おせんべいやあめも一個ずつバラ売りしていた時代。木造りのアーケードや露天商もあり、にぎやかだった。露天商は、バスが通るときに邪魔になるので無くなつてしまつた。都橋の横の2階建ての建物に移り、今も残つてゐる。お正月は1日しか休みがなく、忙しかつた。夜遅く露天商に遊びに行つたりして、楽しかつた。食べ物も着るものも、やかん、鍋、日用雑貨も、野毛にいれば何でもそろつた。にぎわい座は、前は税務署でね。「ニュース劇場」や「マリウス」（レコード屋）もあって、野毛は本当に横浜で栄えていた。まだ横浜の西口にも何もなかつたからね。横浜スタジアムは、前は「平和球場」って呼んでたけど、球場下には卓球とか遊べる施設があつた。市役所もまだなかつたから、あの辺り一面広場でね。5月の港祭りには、バザーをやつていた。見世物屋も来ていて、お化け屋敷や食べ物の露店、ヨーヨーや鉛筆つかみもあって、とても楽しみにしていた。

洋服は、既製品はあまりない時代だったでしょ。舶来ものを扱っている生地屋で好きな生地を買って、洋裁店に持つて行って、洋服に仕立ててもらっていた。昭和33年当時、4000円のブラウスを、三愛さんで買ったわね。高島屋さんが出来る前ね。

昭和30年頃は、どこに働きに行っても、お米の登録証とお布団を持って行っていた。お米の登録証が人口調査をかねていて、お米屋さんが町内のことを探していいたのよ。だから町にはお米屋さんはあるでしょ。

元町は、小さいころは今みたいにお店が多かったわけではないけど、オリジナルの商品を扱っているお店が多くて面白かった。輸入のさいふや靴を扱っていたフクゾー、帽子屋のウルベ、イギリスの輸入品を扱っていたポピー。ミハマで買った靴を履いて旅行に行ったときは、いい靴だって褒められたわ。やっぱり色々な国の輸入品があった。川も交易の場でぎわっていたしね。三井物産の船から、不良品を譲ってもらったりもしてね。川もきれいだった。

カ 山本さま

- ・震災後、野毛大通りの道幅が広がった。その時家の土地を無償で提供した。
- ・今、通りにあるマンホールは、家の井戸だった。今はNTTが使っているが、井戸の内側の淵を囲う竹はそのまま残っている。
- ・今、JRAがある場所は、戦前は憲兵司令部だったが、その後、マッカーサー劇場・国際劇場となり、今では180度イメージの違う建物になった。
- ・野毛に憲兵隊隊長などの官舎があった。
- ・山本さんの家は、10年ほど前に店を畳むまで、1869年から130年近く続く魚屋だった。店の名前は「魚幸」で、野毛の茂木惣兵衛の家や、山を越えた原三溪の家、病院などに仕出もしていた。板前が3、4人いた。
- ・近くの山田屋とも取引があり、ラジオ関東によれば、大正8年10月には山田屋に対して、1860円の売り上げがあった。現在の価格では、2000万円くらいになるらしい。
- ・茂木家とのつながりは深く、ある冬、茂木惣兵衛がナスを食べたいと言い出したがなかなか手に入らず、「魚幸」に依頼がきた。店の若い衆が、鑑賞用のナスがあるのを見つけ、それを買ってきた。
- ・現在の横浜スタジアムは戦後はゲーリック・スタジアムという名前で、夜になるとアメフトの試合をやっていた。終わり近くになると無料で入ることができる席があったため、近所の子どもたちで、席に残った食べ残しの缶詰のピーナツを集めたりした。
- ・野毛には、とうもろこしを持ち込むと、10円くらい?でポン菓子を作ってくれる店があった。
- ・昭和10年の生まれで、小さい頃子供たちはみんな伊勢佐木町のあたりを裸足で走り回っていた。
- ・通っていた老松小学校の校庭はアスファルトだった。夏場は裸足で立つと足の裏が暑く、足を踏みかえ踏みかえしていた。
- ・小学校時代、都橋の向こうに見えたカマボコ兵舎が強く印象に残っている。
- ・中学時代はまだ食料不足で、半日授業だった。
- ・教育委員会主催で藏王にスキーに行く、「市民スキー」というものがあった。野毛や伊勢佐木町の仲間で問題を起こしてしまい、それ以来野毛地区の人間は出入り禁止になった。
- ・東京オリンピックのときに露天商を都橋の建物に押し込んでしまい、それで野毛の賑わいが減ってしまったと思う。
- ・食料が配給制だった頃、規制を受けない華僑が野毛に集まって料理屋をやっていた。
- ・小さい頃、吉野町の市場まで、さつま揚げなんかを買いにお使いに行っていた。

キ 野毛で活躍中のみなさま

- ・受験勉強の図書館をよく利用した。当時はまだ古い建物だった。チラシの建物に見覚えがある。
- ・昭和26年ごろ氷の販売をしていた。ホテルニューグランドに納品をしていて、それが今でも続いている。
- ・桜木町事件のことをよく覚えている。90人～100人くらい亡くなったのではないか。そのとき小学校5年生だったが、当時はビルもなく、学校の教室や屋上から現場が見えた。
- ・市電が走っていた。どこかへでかけるのはほとんど市電だった。
- ・市電は25円で野毛から杉田まで行けた。よく海水浴にいった。
- ・東横線が世田谷まで走っていた。電車に油がしいてあって、ニキビにしみて痛かった。すごく混んでいた。
- ・みなとみらいは新興都市で、こちら（野毛）はお年寄りの受け皿になっている。みなとみらいにないものをこちらで受け入れていこうという姿勢が野毛にはあって、それが野毛が生き延びている理由だと思う。お年寄りは昔の野毛をよく覚えていて、焼き鳥屋さんなんかで仲良く話をしたりしたが、だんだんそういう人が少なくなってきた。今は新しい店もしてきた。
- ・露天商が昭和30年くらいまであったと思うが、当時は一番野毛が華やかな時代だったのではないか。なんでもそろうし、なんでもOKという感じだった。泥棒なんかもいて、家からなくなったりした家具が家具屋にいくと売られていたりした。
- ・横浜駅西口は石炭置き場だった。川があって、そこに石炭が積まれていた。
- ・大岡川の川沿いに材木置き場があった。輸送は川でしていた。
- ・川で拾ったとうもろこしなどを、野毛の爆発屋でポン菓子にしてもらった。
- ・JRは桜木町が終点だった。みんな桜木町で降りて、野毛を通って伊勢佐木町へ行った。
- ・税務所や区役所があった。職安もあって、一日はたらいて240円とかだった。日雇いの仕事にあぶれた人が立飲み屋で飲んでたりした。
- ・日雇いの労働者はトラックに詰まっていたり、船着場で荷運びをしていた。
- ・野毛には銀行が多かった。浜銀や帝国銀行、三和銀行、三井銀行。経済がしっかりしていたということだと思う。
- ・有隣堂や、マッカーサー劇場、国際劇場があったのを覚えている。金物店を営んでいたが、店に美空ひばりがスリッパを買いにきたことがある。
- ・今のにぎわい座のところに横浜ニュース劇場があった。マンガもやっていたのでよく見にいった。大人も子どもも30円ぐらいじゃなかったかと思う。マンガはディズニーとかで、トムとジェリーを見た覚えがある。力道山の試合もやっていた。一週間のニュースというのをやってたから、一週間に一回は通ったよ。
- ・野毛劇場でナイトショーをやっていて、鞍馬天狗なんかを見た。
- ・正月には門松をたてたが、正月明けに雪が降ると、門松の竹を二つに割ってスキー板にした。それで野毛山を滑った。
- ・昔はいろいろな商売があった。呉服屋とか疊屋とか。露店商では靴とか洋服とか時計を売っていた。だんだん飲食店が増えてきた。今の大岡川沿いに靴屋が多いのは、露店商がなくなった時に靴屋がそこに移った名残。
- ・石炭とか、大岡川を利用して運搬している業者が多かった。
- ・昔は三菱ドックの人が野毛に流れてきていた。役所の人もみんな野毛に集まって飲んでいた。野毛はかざらない所で、気楽に飲める場所だと思う。
- ・野毛はお父ちゃん・お母ちゃんでやっている店が多い。お客様を大事にするし、お客様の話を聞いてあげたりする場所になっている。店の方も2代目、3代目と受け継がれていっているが、お客様の方も長く付き合って2代目、3代目になったりしている。お客様と心でつながっている場所だと思う。
- ・昔は先輩と後輩で飲みに来て、そうやってだんだん世代が受け継がれていった。今はそういうことが少なくなってきたように思う。昔はみんな野毛の方に降りてきたのが、最近は少なくなってきたように感じる。

- 幼稚園にいく子に「いってらっしゃい」「おかえり」って声をかけたりして、誰かが子どもに目を向けていた。近所の道路で遊んでいたりして、何かすると近所の人に怒られたりしていた。そういうつながりが今はなくなってきた。
- 小学校のころは崖をのぼったり、木登りしたり、たこ揚げをしたり。テレビがなかった。テレビがきたのは昭和39年くらい。力道山の試合なんかを、電気屋さんのテレビでみた。当時はまだ子どもで、前の方じゃないと見えない。早く行って、場所取りをしたりした。
- 野毛山動物園は最初は有料だった。飛鳥田市長のときに無料になった。
- 昔はいわゆるヤクザが多かった。サルベージ屋とかも。でも、そんな悪さはしなかった。トントン屋っていって、船にペンキを塗る前にサビを落とす仕事もあった。
- いまみなとみらいにある鉄橋は昔は貨物の通り道だった。そこから飛び込んで泳いだりしていた。昔は大岡川もきれいだった。
- 昔は風呂屋がいくつかあった。自宅に風呂がないので、みんな風呂屋にいった。風呂屋はコミュニケーションの場所だった。

ク 吉田興産株式会社 代表のみなさま

- 吉田新田は開拓から400年になるが、横浜は開港からまだ150年で、横浜は孫みたいなもの。
- 江戸の大火で材木商として財をなした吉田勘兵衛が、仕入れで通る横浜に目をつけ、幕府に埋め立てを願い出たのが吉田新田の始まり。
- 埋立てた土地は今現在宅地になっているところで36万坪、18ホールのゴルフ場2つ分。道路などを含めたら、その倍くらいになるのではないか。
- 将軍も吉田新田に鷹狩りにきていたらしい。
- 末吉町は、西洋野菜の発祥の地である。(開港後)
- 社長の父親で11代目となる。10代目までは代々勘兵衛を襲名していたが、11代のときは震災・戦争など大変なことが続き勘兵衛の名は継がなかった。
- 埋立地を貫くのが大岡川。横浜は川をたくさん埋立てている。
- 3・11の震災の時も、ほとんど液状化しなかった。違う土を何層にも入れているため、びくともしないらしい。
- 震災後2年経つてから生まれたが、当時は震災で怪我をした人が身近にかなりいて、震災が現実の問題だった。
- 東ヶ丘の幼稚園から、吉田小学校に行っていた。
- 戦争が近づくと色々なものが変化し、子供心に戸惑った。例えば野球をやっていたが、ピッチャーが投手、キャッチャーが捕手、というように全部漢字に変わった。甘味の味付けが砂糖ではなくサッカリンになったり、お弁当に白米を持っていくと贅沢扱いされたりするようになった。
- 小4のとき集団疎開させられたが、食べ物のなさに3日間しか堪えられず、母親の実家のある小田原の方に疎開した。
- 戦前は生物の時間にカエルやヤモリの解剖をよくしていたが、戦後はなくなった。
- アンゴラウサギが一匹ずつ子どもに渡され、子どもたちはそれを世話をした。大きくなったところで潰して、なめした皮は満州に送られた。肉は自分達で食べてよいことになっていた。
- 戦中、母親の実家の多きな鉄の門から牛の鼻輪にいたるまで、金目のものは全部はずして持っていた。
- 食べ物がない時代だったので、色々な経験をし、たくましくなった。農家の漬柿や芋、大根をこっそりとて食べた。川に農業用の電線を入れ、感電して浮いてきた魚を焼いて食べた。(小田原)
- 野毛山動物園の動物たちも、終戦の境のあたりに注射で殺された。
- 馬はまだ背が足らず乗れなかったので、牛に乗っていた。小田原の町を練り歩いていたら米兵に写真を撮られた。

- ・横浜大空襲の時は、横浜の方の空が赤くなっているのが国府津から見えた。
- ・空襲の数日後、疎開先の小田原より横浜に入った。川の水が流れなくなるくらい死体が散乱していた。焼夷弾から逃れるため川に飛び込んだが、絶壁の河岸を登れなかつたのではないか。
- ・ぽつぽつとビルが焼け残っていたが、あたり一面が建物がなく、長者町に立つと港まで見通すことができた。
- ・マッカーサーがくると、まずあつという間に飛行場を作り、飛行場ができたと思ったら、カマボコ兵舎が作られた。接收された土地との境には金網が張られ、金網越しに米兵の生活が見えていた。
- ・長者町の家の蔵も接收され、金網の向こうに入ってしまった。米兵が蔵を扉を開け、中の品を盗っていく一部始終を金網越しに見ていた。煉瓦の中に生砂を入れたとても丈夫な蔵で、飛行場を作る時にも壊せなかつたらしい。扉の蝶番を火炎放射器で焼いて壊そうとしたが、それでも扉は少ししか開かず、結局やせたアメリカ兵がその隙間から入つていった。中にはライカや槍、兜などが入れてあつたが、全部アメリカ兵が持つていつてしまつた。槍は扉から出せなかつたため、柄をはずし穂の部分だけ持つていつた。交番にいつて訴えてもどうにもならず、ショッキングな出来事として記憶に残つてゐる。
- ・伊勢佐木町の角のあたりに下士官用の慰安施設があり、その周りに娼婦が集まつてきていた。米兵たちは、わらじのような大きさの肉を食べていた。その食べ残しや缶ビールの飲み残しを拾い、川沿い（大通り）で食べている人がいた。
- ・将校用の施設として、伊勢佐木の不二家が接收されていた。
- ・米兵の子どもと友達になり、家に招待した。お返しに、山下公園にある高級将校の家に招待された。家の中はまさにアメリカという感じだった。クリスマスとか楽しみにしていたが、プレゼントを用意するのに苦労した。
- ・金網の周りに子供たちが集まり、ギブミーチョコレートをやつていた。
- ・中学受験の時、野毛の図書館を利用していた。席をとるために朝早くから並んでいた。本は貴重品で、当時は貸出はやつていなかつた。ページを破つたりすると他の人に迷惑がかかるので、そういうことはやらなかつた。
- ・開墾後、吉田新田には全国から人が集まつてきた。芝居小屋・映画館など、なんでもあつた。
- ・野毛には露天商がたくさんいた。道路に60件くらいあつたと思う。
- ・港湾関係の人たちが集まつていた。野毛は、そういった人たちのハローワークや飲食街になつてゐた。
- ・カンカン屋などの肉体労働者の人たちが、路上でヒロポンを注射していた。戦後しばらくは、麻薬や売春の黄金地帯などと呼ばれるような地域もあつた。
- ・“おとりさま”を仕切つてゐるのは“とび”だつた。
- ・露天商が消えてしばらくはまだよかつたが、その後伊勢佐木町のデパート、銀行が5、6年で一斉になくなつてしまつて不便になつた。
- ・会社の横浜支店といつたら馬車道にあるものだつたが、この頃から横浜駅西口に移つていつた。
- ・このあたりで一番大きく変わつたのは、東横の桜木町駅がなくなつたこと。当時商店街に10億円の補助金が出たり、駐車場が入つたりした。
- ・野毛の中区税務署もなくなつた。中税の署長と言えば出世コースで、池田、佐藤、福田、大平などの歴代総理は20代の頃みんな中税の署長をやつていた。ノンキャリの副署長もここで無事署長を送り出すことができれば、自分も他の税務署の署長になることができた。
- ・野毛は「ダービーの町」と言つてゐた。一時は競艇などのギャンブル系の施設を野毛に集め、夜の町として復活しようという考えもあつた。

松坂屋

現在は、ぽっかり建物がなくなってしまっている。松坂屋には、従業員も入ったことのない秘密の部屋があった。お客様からは見えない、バックヤードにあった。松坂屋は増改築を繰り返していたために、そんな部屋が出来た。歴史的建造物のため、外壁沿いに足場を作つて、壁面落下防止の作業を行つた。その際に間近に外壁を見たが、素晴らしく、落下物を記念にもらつたりした。自分が伊勢佐木で働くと思ったのは、小学校の頃、母親に連れられて、一度だけ「野沢屋」に来たことがきっかけ。その時の野沢屋の店員さんがとても親切で記憶に残り、伊勢佐木の百貨店に勤めることになった。

伊勢佐木商店街

伊勢佐木の商店街のDNAは変わらない。伊勢佐木町は、イベントを多く行い、人を集め。埋立地だったため、人を集めて地を踏み固めていた頃に始まり、見世物小屋で人が集まれば飲食店も増え、自然に商店街となった。コンサートや寄席というようなイベントは今も多く、町本来の生き方をしているのが伊勢佐木。ユニクロ等の進出から、ビジネスチャンスとしての伊勢佐木の活力も証明されている。

ゆず

松坂屋で販売促進の仕事を担当しており、商店街とのイベントなどに多く携わっていた。閉店後とはいえ、松坂屋の前で路上ライブを行つてゐるのをほつとくわけにはいかないということで、「ゆず担当」が出来た。ゆずは、毎週日曜夜10時から、松坂屋前で路上ライブを行つて、正面柱の奥に待機していた。紅白に出る際は呉服を用意したり、「ゆずの地元」として取材を受ける中で、ゆずとの関わりが出来た。松坂屋でゆずグッズを販売したこともある。2003年には、松坂屋にゆずのモニュメントが出来て、12月には紅白で松坂屋の前でライブを行つた。紅白出場が決まり、松坂屋の前でライブをしたいという申込みがあった。当然会場は伏せられていたので、箇口令がしかれ、本当に31日の朝まで情報は出なかつた。NHKの中継車を見て人が集まり、ライブの際には人があふれる程だった。松坂屋では、屋内でゆずが通るところに「お帰りなさい」シールを貼つておいて、本人達も気付いてくれた。警察は有隣堂のベランダから警備指揮を取つた。2004年には、松坂屋の屋上に壁画を作成。これは、昔あった伊勢佐木をプリントして残していこうという「思い出の中の伊勢佐木」という企画の一部で行われ、映画館の看板を描く技師さんが壁画を作成。ゆずの壁画の前で出会つた、ゆずに励まされたというファンの親子に、松坂屋でのゆずとの関わりの話をした。後日、親子から手紙が送られてきて、人と人との出会いやつながりを感じた。ライブハウス「CROSS STREET」は、ゆずに名前を付けて欲しいという声から、ゆずに命名してもらった。

商店街の人達は、ゆずに対して非常に礼儀正しいという印象を抱いていた。路上ライブをしている二人に対して、商店街で音響設備を買ってあげようか、ライブの際の交通整理など協力しようかという話もあったが、ゆずのファンはマナーも良くその必要もなかつたため、見守つていた。

コ 石田榮一さま

私が初めて芝居を見た時の話です。私が小学校の四年くらいの時の事です。当時私の家は大家族で、ヒイおばあちゃんがかくしやくとして一緒に住んでおりました。そしてある日そのヒイおばあちゃんが芝居に連れて行ってくれたのです。当時親戚の子が遊びに来ておりまして、二人を連れて近くに住んでいたヒイおばあちゃんの娘の人と一緒に芝居見物に行つたのです。

当時の事を書いたものを読むと北方町に松島館という芝居小屋があったと書いてあります。私の幼い記憶と記事が大体合っているので行ったのは松島館だと思います。幼い私は普通の家の間にこのような芝居小屋があったのが強く印象に残っております。当時はテレビ等無い訳ですからその家の中で話に聞いた芝居の演じられるのを見たのが印象に残つております。

まだ子供にとっては世の中が比較的穏やかな頃のなつかしい思い出です。

終戦後、まだ米軍が進駐軍と言っていた頃の事です。父が東電に勤めていた関係で米軍接収地の本牧に変電所を作る時の話です。米軍の命令で一定の期日迄に変電所を作らなければならぬので大変だったと思います。私の家は空襲に焼けなかつたので割合に広い離れが空いていました。そこに作業をする人が七、八人泊まり込んで仕事をしたのです。まだ食堂など無い時でしたから、食事をする母は大変でした。私は昼間は学校に通つておりましたので、工事についてはよく分かりませんが朝晩は大所帯でした。

町の中に高圧線を引くのに人の住んでいないところを通さないといけないので場所の選定が大変だと言う事でした。期日が迫るとコンクリートの基礎がまだよく固まらないうちに変圧器を載せたりしたむずかしい工事だったと聞いております。

そのようにして変電所が出来て本牧には夜間照明のある米軍野球場等が始まったのでした。

サ 横浜戦災遺族会会員 岡野利男さま

- ・父親の代から、曙町で「岡野乾物店」という食料品店をやっていた。砂糖や小麦粉を扱つていて、「みのや本店」にも卸していた。
- ・伊勢佐木の商店をマス目にした双六（昭和10年発行）にも店の名前が載つていて、それが家に飾つてあった。
- ・戦争中はみんな配給切符を持って、買い物にきていた。
- ・「岡野乾物店」の前の家主は友野きぬさんという人で、米問屋をやっていた。友野きぬさんの娘の友野はなという人は、「紅澤葉子」という芸名でオペラ歌手をやっていた。その頃はこういう職業についての視線が厳しく、親からもだいぶ反対されたらしい。
- ・紅澤葉子は九州から帰つてくると、「大活」（大正活映、1920-1922、元町）に飛び込んで俳優をやっていた。
- ・『横濱行進曲』という劇で紅澤葉子の役を、五大路子が演じていたこともある。
- ・市営地下鉄は初め、上大岡駅～伊勢佐木長者町駅間で開通した。
- ・伊勢佐木の商店街は初め地下鉄に反対していたが、いざ駅ができるとなると、自分たちの名前も入れるよう要求したため、「伊勢佐木長者町駅」という長い駅名になった。
- ・当初は地下の区間しかなかつたので、蒔田の杉山神社に大きな穴を掘つて車両を下ろした。当時、どうやって地下鉄に電車を入れるかという漫才が流行つていた。

- ・国民小学校の最後の卒業生で、その後はY校に通っていた。帽子に校章のYの字が入っていたが、戦時はアルファベットは敵国の字ということで、「Y」でなく「横商」という字を使っていた。Y校5年生に上がる前に、縦上げ卒業となって軍需工場に動員になった。
- ・昭和47年、空襲から20年経ってやっと、三ツ沢の墓地で戦災者慰靈祭が行われた。母親も挨拶に出ていた。
- ・市電の線路が途切れているところがあった。川沿いに路線が変わったためらしい。

シ 新井暁美さま

結婚後、夫が生まれ育った横浜で暮らすようになったのは昭和四十年の晩秋の頃。家は根岸湾沿いの町にあった。眼前に広がるのは海ではなく、石油タンクが並ぶコンビナート。根岸湾の埋立地は工業地帯となり、その周辺の産業都市化が急速に進んでいた。昭和三十九年に根岸線が開通。市電が走っていた浜の道は国道になる。国道を挟んで海側は工業地帯、丘側は戦災を免れた古い根岸の町並みが続く。近代化の波が押寄せる暮らしの中で、人々が何かを失っていくのではないかと思った。

娘が二歳の頃、変な咳をするようになり、病院で根岸喘息と診断された。幸いひどくならずに治癒したが、健康被害の話が聞こえてくるようになった。光化学スモッグも生じることがあった。汚染された空気がきれいになり安心できるようになったのは十数年後のことである。

根岸の丘陵地にある根岸競馬場が接收解除されたのは昭和四十四年。その後、その一帯は森林公园になり、今は樹木が育ち、草花が美しい。特に梅と桜の時季はすばらしい。又競馬場を記念して馬事公園もある。消えた海にかわって市民の良き憩いの場となっている。

近代化・合理化していく生活・文化。

古い家はいつの間にかマンションやアパートに姿を変えていった。町の人々の健康を支えてくれていた「横浜日赤病院」は「港湾病院」と合併、「みなと赤十字病院」と名を改めて、中区新山下に移転。病院の跡地には、三三〇戸をかかえる巨大なマンションが建った。ほとんどの空地は駐車場になり、古い店は全て消えコンビニが繁昌している。

丘側に沿って通る旧道、浜の道にできた国道、平成十三年に開通した高速湾岸線、それに加えて、やがて国道三五七号が加わる。日々、すごい数の車が通り抜けていく。

海があった頃の生活・文化は、もうどこにもない。

海が埋立てられたことで途絶えていた奇祭・三〇〇年も続いてきた根岸八幡の祭りです。担ぐ神輿は榦の枝だけで造ります。切り出した榦を白滝不動の水に浸して清めてから組み立てていきます。

昭和六十年八月三十年振りに復活。

老いも若きも町中が喜びに溢れました。

以来五年置きに行われています。

町の姿が変えていく中で、造る人も担ぐ人も予算も少なくなり、また途絶えてしまうのではないかと危惧されている祭です。

ス 神谷鐵二さま

私の10才頃のお話です。私の家は煙草と雑貨類、郵便切手や葉書を売っておりました。当時のお話です。今の高島町交差点あたりから戸部警察の間に石崎町という市電の停留所がありその前に日本館という無声映画専門の常打ち映画館がありました。河合映画、大都映画が専門でした。私の家から約3分くらいの所にあり、活弁が主力で当時トーキー映画が一番おそらく後発メーカーの優れたるものでしたが無声映画ではダントツな会社でした。封切館ではなく二番か三番館の地位だろうと私は考えておりました。だが本社は東京の巣鴨にあり横浜のロケハーンには常時見えてました。本拠地が私の家のはす向かいのカフェー新玉という所で昼間はこの映画会社の独占の役目をしておりました。時代劇の場合の撮影地の主力は今の三ツ沢街道筋や、豊顕寺や中軽井沢周辺が主力の模様でした。私はホンチ取りの最中に一度だけ松山宗三郎主演の撮影現場を見たことがあります。戦後新宿で「肉体の門」という戦後代表的な小崎政房という劇演出の名前で松山宗三郎の出世姿を見ることがありました。田村泰次郎小説家の戦後傑作の一番手だと思います。近衛十四郎や必殺の藤田まことのお父上などはロケの都度郵便を出すので、筆まめな父上と思いましたが後年聞くところによると早大英文科の秀才で字が非常に上手でした。

弁士の話になりますが、時代劇には桜井錦声、現代劇には栖紫郎と云う2名の方々で非常に人気が高かったのです。演奏のお手伝いなどをして鳴物などは非常に上手でした。弁士が演奏の手伝いをするなど、如何にも横浜的なムードが溢れています。夜の7時30分になるとベルが鳴り「只今より今半ですよ、半額になります」と職員がメガホンで案内をします。また連続ものの伴奏などはテンションをここ一番に盛り上げて演奏をします。邦楽伴奏のなかでも50年たってそれが歌舞伎座で演じる「娘道成寺・・・」の聞かせどころと分かったのは長唄の聞かせ所だったのです。

*ホンチ：蜘蛛のこと。蜘蛛を戦わせる遊びが流行っており、その蜘蛛を取りに行ったときの出来事のこと。

セ 大谷卓雄さま

「横浜ベイスターズ優勝パレード写真の笑い話」

私が優勝パレードの写真を写した写真に神奈川新聞社のカメラマンが市役所の屋上から写真を撮っている姿が、写っていました。

神奈川新聞社のカメラマンが写した写真に、私の写真をとる撮影の姿が写っていました。

すなわち、お互い写しきした写真が出来たという、記念すべき2種類の写真を私は大切にしています。

ソ 白井誠治さま

「閉散としていた新幹線「新横浜」駅前」

1970（昭和45）年4月24日（写真37）

新横浜駅は開業してしばらく経っても、こんな状態が続いた。駅前には広大なタクシー乗り場があり、タクシーが手持ちぶさたにしていた。遠くに「新横浜国際ホテル」だけがポツンと立っている。

「横浜港を出港する最後の移民船「あるぜんちな丸」」

1970（昭和45）年3月3日（写真38）

さすがにこのころの移民船は珍しく、この船が最後の出港となった。ブラジルへの移民で若い夫婦が多かった。家族・親戚が抱き合って別れを惜しんでいた。農業大学などの後輩は元気よくあちこちでエールを送っていた。

「廃止直前の横浜市電」

1972（昭和47）年3月25日（写真39）

交通渋滞の元凶のように見られ、全国各地で路面電車が次ぎ次ぎに廃止されていった。横浜でもこの都市（1972年）3月31日でついに全廃されてしまった。同じくこの年、市営地下鉄伊勢佐木長者町駅～上大岡間が開通した。

「全盛期の横浜ドリームランド」

1970（昭和45）年5月12日（写真40）

敷地面積が一番広かったころの「横浜ドリームランド」。ここへ行くまでのモノレールも珍しかったし、大規模な施設にビックリしたものだった。私のお気に入りは水中を眺められる潜水艦。写真はゲートを入ってすぐの大花壇を見たもの。この日は平日で人出は少なかった。

「大成功を納めた横浜博覧会」

1989年（平成元）年7月23日（写真41）

市政100周年・開港130周年を記念して、「宇宙と子どもたち」をテーマに、みなとみらい21地区で1989年3月25日～10月1日まで、191日間にわたって「YES '89 横浜博覧会」が開催された。

会期中の入場者は入場予測を上回る1333万7150人で、大成功を納めた。数多くのパビリオンの中で上位5館は、①三菱未来館（334万人）、②横浜高島屋不思議ドーム（307万人）、③横浜館（292万人）、④日産・芙蓉館（224万人）、⑤建設パビリオン（222万人）だった。この中で、「横浜体験 - きのう・きょう・あした - 」のテーマのもとに横浜市が出店した「横浜館」が上位にランクされていたのが注目される。ちなみにこの日、7月23日（晴）の入場者は、5万1000人だった。

「建設中のランドマークタワー」

1991（平成3）年8月25日（写真42）

1989（平成元）年10月、横浜博覧会（YES '89）の終了とともに、その跡地に建てられたランドマークタワー。このころようやく姿を現しはじめて、空高くどんどん伸びていった。4つのクレーンが建築の主役で、最後まで大活躍していた。

タ 小野隆さま

歴史 [編集]

1965年 横浜市の6大事業の一つとして、同地区の再開発構想が出る。
1979年 「横浜市都心臨海部総合整備計画」基本構想発表。
1981年 一般公募により事業名が「みなとみらい21」に決定。

日本丸

1983年 三菱重工横浜造船所の移転完了。
帆船日本丸の横浜市への移管が決定。
11月8日に「みなとみらい21」事業着工。
1984年 埋立事業の礎石沈定式。
株式会社横浜みなとみらい21設立。

1985年 横浜そごうが入る「横浜新都市ビル」開業。
「日本丸メモリアルパーク」一部完成、帆船日本丸を一般公開。

横浜ベイブリッジ

1989年 動く歩道完成。
横浜市制100周年、開港130周年を記念して「横浜博覧会（YES'89）」開催。動員数1333万人。以後、同地区の開発が本格化。
「横浜ベイブリッジ」開通。
中央地区の広範囲における町名、住所表記が「みなとみらい」に決定。
「横浜マリタイムミュージアム」開館。
「臨港パーク」一部完成。
横浜市内初の大型美術館である「横浜美術館」正式開館。
1991年 「パシフィコ横浜」（横浜国際平和会議場・展示ホール）竣工。
「ヨコハマグランドインターチェンジタルホテル」開業。
「ぷかりさん橋」完成。
1992年 首都高速道路横羽線にみなとみらい出入口設置、供用開始。

横浜ランドマークタワー

1993年 「横浜ランドマークタワー」開業。
「横浜銀行本店ビル」竣工。
「横浜ロイヤルパークホテルニッコー」開業。
1994年 国際大通りの「国際橋」開通。
パシフィコ横浜内に「国立横浜国際会議場」完成。
「三菱重工横浜ビル」竣工。
1996年 「けいゆう病院」移転開業。
「横浜スカイビル」開業。
1997年 新港地区の都市計画が決定。
「横浜桜木郵便局」開業。
「クイーンズスクエア横浜」開業。
「日石横浜ビル」竣工。
「汽車道」開通。
「パンパシフィックホテル横浜」開業。
1998年6月 「横浜みなとみらいホール」正式開業。

よこはまコスモワールド・コスモクロック21

1999年 「横浜メディアタワー（NTTドコモ神奈川支店）」開業。
「よこはまコスモワールド」正式開業（観覧車コスモクロック21も移転）。
「横浜ワールドポーターズ」開業。
「運河パーク」完成。
横浜国際船員センター「ナビオス横浜」開業。
「グランモール公園」全面完成、「横浜ジャックモール」開業。
2000年 「クロス・ゲート」（横浜桜木町ワシントンホテル）開業。
2001年 「新港パーク」全面完成。
集客イベントとして企画された「横浜トリエンナーレ2001」を開催
2002年 「山下臨港線プロムナード」完成。
横浜赤レンガ倉庫が改築され、「赤レンガパーク」全面完成。
「JICA横浜国際センター」開業。
2003年 高層マンション「M. M. TOWERS」竣工。

チ 本牧の石田良男さま

「野毛山公園で占領軍に人形を売る」

昭和 20 年 9 月 3 日の降伏文書調印後、中区内の繁華街の主だった場所は全て占領軍に接収されて、僅かに日本人の町として残されたのは野毛だった。

10 月頃、野毛山公園では占領軍の兵士が日本の美術品、着物、人形などを珍しがって日本円で、しかも言い値で買ってくれるというクチコミ情報が入ってきた。円は「エン」、錢は「セン」で通用して、金額を紙に書いて持つていれば、言葉が通じなくても買ってくれるという。母は、イエス、ノウ、サンキュウ、グルバイ（グッドバイを当時の多くの人は、このように言っていた。）位は喋ることができたので、母と当時 10 歳の私は人形を持って野毛山公園に行った。

野毛の町は完全な焼け野原であり、野毛山公園に行く野毛本通りや細い路地には店が沢山出ており、野毛しか行き場のない日本人であふれていた。店といつても、殆どが露天商である。公園の広場では店は出てないが、多くの人がいた。ただ居るだけの人、食べ物を籠やざるに入れて売っている人、占領軍兵士に品物を売っている人、占領軍兵士相手の日本人女性、戦災孤児、それぞれの国の戦闘服姿で武装した連合各国の兵士などで、ごった返していた。売っている食べ物は全て自家製で、半分に切った蒸かし芋、うどん粉に重曹を入れて膨らませただけの蒸しパン、飯を潰して餅のようにしたもの等であるが、日本人は皆腹を空かしていたので、結構売れていた。

母と私は、今まで物を売ったことがない。売っている人に売る要領やどのくらいの値段ならば良いかを教わり、値段を紙に書いて持つていたら、しばらくしてアメリカ陸軍の兵士が買ってくれた。

通りや公園広場の治安のための警察は、武装したアメリカ軍の憲兵である MP (陸軍) や S P (海軍) が行っていた。敗戦直後の日本の警察には治安能力がなかった。

「あかざ、しろざ、残飯の想い出」

昭和 20 年 7 月 6 日に、事情があつて箱根の集団疎開から横浜の自宅に帰ってきた。当時は米の配給量が少なかつたので、野菜や野草を入れた箸が立たないような雑炊が主食だった。夏なので、空襲で焼け跡となったころには、野草の「あかざ」や「しろざ」が沢山自生していた。「あかざ」、「しろざ」は癖がないので、殆ど毎食の雑炊に入れて食べた。「あかざ」と「しろざ」のお陰で命拾いができたといつても、過言ではない。私は「あかざ」と「しろざ」に恩義を感じており、今でも毎年庭で「あかざ」と「しろざ」を絶やさないで育てている。時々、葉を使った料理を作り、感謝しながら食べている。

戦争に負けて、更にひどい食糧難の時代となつた。ある夜、父が進駐軍の残飯を買ってきていた。小港のワシン坂の方で昭和 20 年の 9 月、10 月頃、進駐軍兵舎から出た残飯を売っていた。進駐軍兵舎から出た残飯だから何が入っているかわからないので、よく火を通してから食べた。当時はいつも空腹だったので、ものすごくおいしかつた。こんなに美味しいものを食べているアメリカ軍と戦争をして、勝てるはずがないと思った。飽食の今では、とても食べられてものではないだろうと思う。

「このような英語なら、俺達でも話せる」

県立緑ヶ丘高等学校の 2 年生の時 (昭和 27 年)、学校への行き帰りは徒歩で裏門、台山を利用していた。現在の本牧山頂公園は米軍の家族の住宅地として接収されていて、サンフランシスコ講和条約が成立するまでは、日本人は入れなかつた。

裏門を出てガス山通りを登りきった道に出たところに、山手警察署の駐在所 (現在は、ない。) があり、駐在所の裏の細い道に面してアメリカ人の家族が住む白い家があつた。私は、いつも友達 2、3 人とこの家の前を通っていた。

この家には、若い日本人女性がハウスメイドとして働いていた。当時、多くの日本人女性が外国人の家出ハウスメイドをしていた。

私達は若いハウスメイドを見るたびに、この人は英語が喋られるのですごいと、いつも話していた。定期試験のある日の学校帰りの昼下がりに、いつものように友人達とその家の前を通ると、よちよち歩きの坊やが庭で泥遊びを始めた。窓からこれを見た女性が、「No, No!」と大きな声で叫んだ。坊やはすぐに泥遊びを止めた。これを見て、彼女は「Yes, Yes」といった。

このような英語ならば、俺達だって喋ることができるぞと、皆で話し合った。

「空襲警報と警察」

空襲がまだそれほど多くなかった頃の国民学校の児童は、警戒警報（長いサイレンが一回鳴る。）が発令されると家に帰された。当時は、空襲警報（短いサイレンが何回も続けて鳴る。）が発令されると、一般の人は外を通行することが禁止されていた。サイレンの装置は、本牧国民学校の屋上にあった。

大鳥国民学校3学年（昭和19年）の夏の晴れたある日の昼前、警戒警報が発令されたので上級生や下級生たちと数人で集団を作り走って下校中に、空襲警報のサイレンが鳴った。丁度山手警察署（空襲で焼けるまでと敗戦後しばらくは、山手警察署は本牧二丁目377番地にあった。）の正門前にいたので、私達学童は警察署の建物の中に駆け込んだ。警察ならば避難させてくれるだろうと、思ったからである。

玄関入ってすぐの机に座っていた巡査が大声で、「入ってきては駄目だ、出ていけ。」と怒鳴ったので、私達は慌てて外に出て走って家に帰って、自分の家の防空壕に入った。

何故、警察署の中に避難したのがいけなかったのかが、子供心に大きな疑問だった。今でも、疑問に思っている。

ツ 中央図書館書架整理ボランティアのみなさま

- ・昭和30年代、町田から遠足で野毛山動物園やマリンタワーに来た。あの頃は、動物園といえば上野か野毛山動物園だった。
- ・ハマ子はインドから来た。
- ・昭和50年代に横浜に引っ越してきたが、横浜は山が多いという印象。関東平野っていうけど、横浜は入っていないとわかった。
- ・昔は、南太田から屏風ヶ浦や野毛山まで海水浴や遠足に行っていた。屏風ヶ浦まで歩いて行ったため、実際泳げたのは1時間ぐらいだった。
- ・父親がホテルニューグランドのシェフをしていた。
- ・磯子の山の上は別荘地だった。
- ・プリンスホテルは皇后様の家の土地だった。
- ・磯子駅のあたりも海だった。産業道路あたりまでは海だった。あのあたりの漁師は埋め立てにあたって賠償金（立ち退き料？）をたくさんもらっただろう。
- ・昔は海岸線を横須賀まで軍用物資を運ぶための列車が走っていた。単線だった。今もあるかはわからないが、山下公園に続く道に線路が残っていたと思う。
- ・本郷台のあたりは軍用の燃料倉庫が多かった。弾薬庫もあった。
- ・横浜港はGHQが使うために開発された。
- ・マッカーサーの親戚が山手に住んでいた。そのおかげで山手に空襲がなかつたらしい。
- ・大桟橋は横浜市に一番初めに返された桟橋。東神奈川付近には、「ノースピア」というまだ返還されていない桟橋もある。

- ・伊勢佐木町1丁目には、朝鮮戦争で負傷した米軍の偉い人がかかる病院があった。そのために、伊勢佐木町に滑走路があった。
- ・野毛山のプールには10mの飛び込み台があった。子供は一番上の段からの飛び込みは禁止されていたが、競って高いところから飛び込んで遊んだ。

テ 中央図書館図書修理ボランティアのみなさま

- ・今のにぎわい座の場所は、昔中区役所か中税務署だった
- ・野毛山のあたりは昔官庁街だった
- ・電車は桜木町までしかなかった。杉田や蒔田へ行くには、市電に乗らなければいけなかった。
- ・「復興小学校」というものが横浜にもあった。また、野毛坂下ったところに「復興アパート」があった
- ・大岡川の上に家があった
- ・大岡川沿いの屋台の整理のため、都橋のハーモニカ横丁ができた
- ・相鉄線の横浜駅は木造だった
- ・横浜駅西口には映画館が何館かあった
- ・赤レンガ倉庫は米軍の刑務所だったことがある
- ・伊勢佐木町の脇に米軍の飛行場があった（昭和25年～28年の間）
- ・蒔田公園の近くに寿警察署があった。今は市の施設になっていたよう…
- ・昭和39年から40年頃、港に船がいっぱいいで、港に入るため船が50日くらい待っていることもあった。
- ・今の高島町のあたりが桜木町駅だった。碑が立っているのではないか？
- ・桜木町事件
電車が燃え多くの死者が出た。この事件以後、独立していた車両1両1両が幌でつながり乗客が通り抜けできるようになったり、窓も大きく開くようになった。慰靈碑が桜木町駅の近くにあったような…
- ・横浜より桜木町、伊勢佐木町が賑わっていた
- ・昭和40年ごろ、「ハマジル（=横浜ジルバ）」があった。横浜独特のダンスだった
- ・野毛には鯨通りがあった（たくさん鯨料理の店が並んでいた）
- ・昭和40年頃、桜木町から都橋にかけて日雇い労働者が集まる場所があった。人が多く集まるため、食堂や飲み屋がたくさんできた。日雇い労働者の日当は1500円くらいだったような（当時の公務員の月給が1万円）
- ・相鉄線は神中線（じんちゅうせん）という名前だった。神中線は砂利を運んでいた。砂利置き場は今の高島屋の場所。
- ・美空ひばりはデビューした劇場がこの辺りにあった（今のJRAか？）。美空ひばりの像がある辺りなのか。
- ・草競馬の馬券場が日ノ出町の駅の辺りにあった。

(3) 写真一覧 (受理番号順)

番号	タイトル	時期
1	北方消防署火見櫓	1958(昭和33)年
2	商売繁栄双六(伊勢佐木の商店をマス目にした双六①)	1935(昭和10)年頃発行
3	商売繁栄双六(伊勢佐木の商店をマス目にした双六②)	1935(昭和10)年頃発行
4	根岸八幡祭(榊神輿)①	1985(昭和60)年
5	根岸八幡祭(榊神輿)②	1985(昭和60)年
6	根岸八幡祭(榊神輿)③	1985(昭和60)年
7	根岸八幡祭(榊神輿)④	1985(昭和60)年
8	根岸八幡祭(榊神輿)⑤	1985(昭和60)年
9	開発前と開発中の「みなどみらい」地区① 横浜dock(ドック)	1982(昭和57)年
10	開発前と開発中の「みなどみらい」地区② 右手は県警本部	1984(昭和59)年頃
11	開発前と開発中の「みなどみらい」地区③ 桜木町駅前から	1984(昭和59)年頃
12	開発前と開発中の「みなどみらい」地区④ 汽車道廃駅	1984(昭和59)年
13	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑤ 高島機関区	1984(昭和59)年頃
14	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑥ 高島貨物駅正門跡	1984(昭和59)年頃
15	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑦ 高島貨物駅	1984(昭和59)年頃
16	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑧ 手前左は港湾局埠頭事務所跡、中央は赤レンガ倉庫	1987(昭和62)年頃
17	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑨ 万国橋付近から汽車道方面	1987(昭和62)年頃
18	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑩ 赤レンガ倉庫前	1987年(昭和62)年
19	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑪ インターコンチネンタルホテル建設	1990(平成2)年
20	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑫ ランドマークタワー建設開始	1990(平成2)年
21	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑬ 新港橋から	1992(平成4)年
22	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑭ ランドマークから横浜東口方面	1994(平成6)年
23	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑮ 新港橋から	1997(平成9)年
24	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑯ 横浜美術館から中央市場方面	撮影年不明
25	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑰ 横浜美術館から「そごう」方面(望遠)	撮影年不明
26	開発前と開発中の「みなどみらい」地区⑱ 横浜美術館から旧高島駅方面	撮影年不明
27	市電① 高島町付近	1972(昭和47)年
28	市電② 久保山電停(電車停留所)	1972(昭和47)年
29	市電③ 本町四丁目付近	1972(昭和47)年
30	西柴① 1970年	1970(昭和45)年
31	西柴② 1971年	1971(昭和46)年
32	西柴③ 1971年	1971(昭和46)年
33	西柴④ 1989年	1989(平成元)年
34	西柴⑤ 1989年	1989(平成元)年

番号	タイトル	時期
35	潮干狩り(JR根岸駅近く)	1950(昭和25)年
36	磯子小学校裏山、ステージ21が出来る前	1952～1953(昭和27～28)年頃
37	閑散としていた新幹線「新横浜」駅前	1970(昭和45)年4月24日
38	横浜港を出港する最後の移民船「あるぜんちな丸」(大さん橋)	1970(昭和45)年3月3日
39	廃止直前の横浜市電(桜木町駅前の歩道橋から)	1972(昭和47)年3月25日
40	全盛期の横浜ドリームランド	1970(昭和45)年5月12日
41	大成功を納めた横浜博覧会	1989年(平成元)年7月23日
42	建設中のランドマークタワー	1991(平成3)年8月25日
43	ベイスターズ優勝パレードを激写！(横浜市役所前)	1998(平成10)年
44	浅間神社(浅間台小近く)	1969(昭和44)年
45	野毛山動物園(ゾウ)	1966(昭和41)年
46	氷川丸船内	1969(昭和44)年
47	石川町地蔵坂 靴店①	1957～1958(昭和32～33)年頃
48	石川町地蔵坂 靴店②	1957～1958(昭和32～33)年頃
49	雪の日地蔵坂	1990(平成2)年
50	横浜港①	1960(昭和35)年頃
51	横浜港②	1960(昭和35)年頃
52	地蔵坂	1960～1965(昭和35～40)年頃
53	横浜博覧会①	1989(平成元)年
54	横浜博覧会②	1989(平成元)年
55	野毛山動物園(ラクダのつがるさん？)	1983(昭和58)年6月
56	野毛山動物園(ライオン舎前)	1983(昭和58)年6月
57	小机にてザリガニ釣り	1991(平成3)年9月3日
58	横浜スタジアム(中日vs大洋)①	1991(平成3)年9月16日
59	横浜スタジアム(中日vs大洋)②	1991(平成3)年9月16日
60	横浜での大雪①	1994(平成6)年12月2日
61	横浜での大雪②	1994(平成6)年12月2日
62	こどもの国	1985(昭和60)年頃
63	野毛山動物園(ホッキョクグマ)	1994(平成6)年11月9日
64	野毛山動物園(ゾウのハマ子さん)	1994(平成6)年11月9日
65	杉田線終点の「杉田」終点から中原方面を見る①	1967(昭和42)年7月
66	杉田線終点の「杉田」終点から中原方面を見る②	1967(昭和42)年7月
67	「白幡」付近を走る市電13番(杉田～桜木町)	1967(昭和42)年7月
68	「白幡」付近を走る市電8番(杉田～桜木町)(屏風ヶ浦交差点を臨む、71の遠景)	1967(昭和42)年7月
69	杉田線廃止を告げる看板	1967(昭和42)年7月
70	「屏風ヶ浦」を走る市電(埋め立て前は、電柱の向こうは海だった)	1967(昭和42)年7月

番号	タイトル	時期
71	「森」～「磯子」間を走る(三宅胃腸科の看板が見える)	1967(昭和42)年7月
72	プリンス山から料亭偕楽園を見下ろし、国電磯子駅などの埋立地、根岸湾を臨む(偕楽園の手前を市電が走り、埋立前は偕楽園の向こうは海だった)	1967(昭和42)年7月
73	プリンス山から料亭偕楽園、国電磯子駅などを臨む(偕楽園の手前を市電が走る)	1967(昭和42)年7月
74	プリンス山から市電を見下ろす。右中に司法書士合同事務所の看板、右上に国電根岸線の車両(大きな建物は磯子会館・現在は建て替えで磯子区総合庁舎となっている)	1967(昭和42)年7月
75	杉田線廃止を掲げて走る①	1967(昭和42)年7月
76	杉田線廃止を掲げて走る②	1967(昭和42)年7月
77	「磯子」から「間坂」寄りを走る	1967(昭和42)年7月
78	「間坂」と「葦名橋」間を走る	1967(昭和42)年7月
79	「葦名橋」で待機中	1967(昭和42)年7月
80	終点「葦名橋」で折り返す市電① (市電全廃が掲げられている)	1972(昭和47)年3月
81	終点「葦名橋」で折り返す市電②	1972(昭和47)年3月

(4) 写真一覧 (テーマ別)

項目	番号	タイトル	撮影時期
市電	65,66	杉田終点の「杉田」終点から中原方面を見る	1967(昭和42)年7月
	67	「白幡」付近を走る市電13番(杉田～桜木町)	1967(昭和42)年7月
	68	「白幡」付近を走る市電8番(杉田～桜木町) (屏風ヶ浦交差点を臨む、71の遠景)	1967(昭和42)年7月
	69	杉田線廃止を告げる看板	1967(昭和42)年7月
	70	「屏風ヶ浦」を走る市電(埋め立て前は、電柱の向こうは海だった)	1967(昭和42)年7月
	71	「森」～「磯子」間を走る(三宅胃腸科の看板が見える)	1967(昭和42)年7月
	72	プリンス山から料亭偕楽園を見下ろし、国電磯子駅などの埋立地、根岸湾を臨む(偕楽園の手前を市電が走り、埋立前は偕楽園の向こうは海だった)	1967(昭和42)年7月
	73	プリンス山から料亭偕楽園、国電磯子駅などを臨む(偕楽園の手前を市電が走る)	1967(昭和42)年7月
	74	プリンス山から市電を見下ろす。右中に司法書士合同事務所の看板、右上に国電根岸線の車両(大きな建物は磯子会館・現在は建て替えで磯子区総合庁舎となっている)	1967(昭和42)年7月
	75	杉田線廃止を掲げて走る①	1967(昭和42)年7月
	76	杉田線廃止を掲げて走る②	1967(昭和42)年7月
	77	「磯子」から「間坂」寄りを走る	1967(昭和42)年7月
	78	「間坂」と「葦名橋」間を走る	1967(昭和42)年7月
	79	「葦名橋」で待機中	1967(昭和42)年7月
	80	終点「葦名橋」で折り返す市電①(市電全廃が掲げられている)	1972(昭和47)年3月
	81	終点「葦名橋」で折り返す市電②	1972(昭和47)年3月
	27	市電①高島町付近	1972(昭和47)年
	28	市電②久保山電停	1972(昭和47)年
	29	市電③本町四丁目付近	1972(昭和47)年
	39	廃止直前の横浜市電(桜木町駅前の歩道橋から)	1972(昭和47)年3月25日
野毛山動物園	45	野毛山動物園(ゾウ)	1966(昭和41)年
	55	野毛山動物園(ラクダのつがるさん?)	1983(昭和58)年6月
	56	野毛山動物園(ライオン舎前)	1983(昭和58)年6月
	64	野毛山動物園(ゾウのハマ子さん)	1994(平成6)年11月9日
	63	野毛山動物園(ホッキョクグマ)	1994(平成6)年11月9日
伊勢佐木	2,3	商売繁栄双六(伊勢佐木の商店をマス目にして双六)	1935(昭和10)年頃発行
北方町	1	北方消防署火見櫓	1958(昭和33)年
地蔵坂	47,48	石川町地蔵坂 靴店	1957～1958(昭和32～33)年頃
	52	地蔵坂	1960～1965(昭和35～40)年頃
	49	雪の日地蔵坂	1990(平成2)年
野球	58, 59	横浜スタジアム(中日vs大洋)	1991(平成3)年9月16日
	43	ベイスターズ優勝パレードを激写!(横浜市役所前)	1998(平成10)年
横浜港	50,51	横浜港	1960(昭和35)年頃
	46	氷川丸船内	1969(昭和44)年

項目	番号	タイトル	撮影時期
横浜港	38	横浜港を出港する 最後の移民船 「あるぜんちな丸」(大さん橋)	1970(昭和45)年3月3日
	9	開発前・中のみなどみらい地区①横浜dock(ドック)	1982(昭和57)年
みなとみらい地区	12	開発前・中のみなどみらい地区④汽車道廃駅	1984(昭和59)年
	10	開発前・中のみなどみらい地区②右手は県警本部	1984(昭和59)年頃
	11	開発前・中のみなどみらい地区③桜木町駅前から	1984(昭和59)年頃
	16	開発前・中のみなどみらい地区⑧ 手前左は港湾局埠頭事務所跡、中央は赤レンガ倉庫	1987(昭和62)年頃
	18	開発前・中のみなどみらい地区⑩赤レンガ倉庫前	1987年(昭和62)年
みなとみらい地区	24	開発前・中のみなどみらい地区⑪横浜美術館から中央市場方面	撮影年不明
	25	開発前・中のみなどみらい地区⑫横浜美術館から「そごう」方面(望遠)	撮影年不明
	26	開発前・中のみなどみらい地区⑬横浜美術館から旧高島駅方面	撮影年不明
	13	開発前・中のみなどみらい地区⑤高島機関区	1984(昭和59)年頃
	14	開発前・中のみなどみらい地区⑥高島貨物駅正門跡	1984(昭和59)年頃
	15	開発前・中のみなどみらい地区⑦高島貨物駅	1984(昭和59)年頃
	17	開発前・中のみなどみらい地区⑨万国橋付近から汽車道方面	1987(昭和62)年頃
	19	開発前・中のみなどみらい地区⑪インターモンチネンタルホテル建設	1990(平成2)年
	53,54	横浜博覧会	1989(平成元)年
	41	大成功を納めた 横浜博覧会	1989(平成元)年7月23日
	20	開発前・中のみなどみらい地区⑫ランドマークタワー建設開始	1990(平成2)年
	42	建設中の ランドマークタワー	1991(平成3)年8月25日
	21	開発前・中のみなどみらい地区⑬新港橋から	1992(平成4)年
	22	開発前・中のみなどみらい地区⑭ランドマークタワーから横浜東口方面	1994(平成6)年
	23	開発前・中のみなどみらい地区⑮新港橋から	1997(平成9)年
新横浜	37	閑散としていた新幹線 新横浜駅 前	1970(昭和45)年4月24日
根岸	35	潮干狩り(JR根岸駅近く)	1950(昭和25)年
	4,5,6,7,8	根岸八幡祭 (榊神輿)	1985(昭和60)年
中	44	浅間神社(浅間台小近く)	1969(昭和44)年
磯子	36	磯子小学校裏山、ステージ21が出来る前	1952～1953(昭和27～28)年頃
金沢	30	西柴①1970年	1970(昭和45)年
	31	西柴②1971年	1971(昭和46)年
	32	西柴③1971年	1971(昭和46)年
	33	西柴④1989年	1989(平成元)年
	34	西柴⑤1989年	1989(平成元)年
戸塚	40	全盛期の横浜 ドリームランド	1970(昭和45)年5月12日
青葉	62	こどもの国	1985(昭和60)年頃
港北	57	小机にてザリガニ釣り	1991(平成3)年9月3日
	60, 61	横浜での大雪	1994(平成6)年12月2日

(5) みなさまから寄せられた写真(受理番号順)

※写真タイトルは、写真のご提供者が付与してくださいました。

※本書は「横浜市立図書館ホームページ」にて、フルカラー、より鮮明な画像で公開しています。



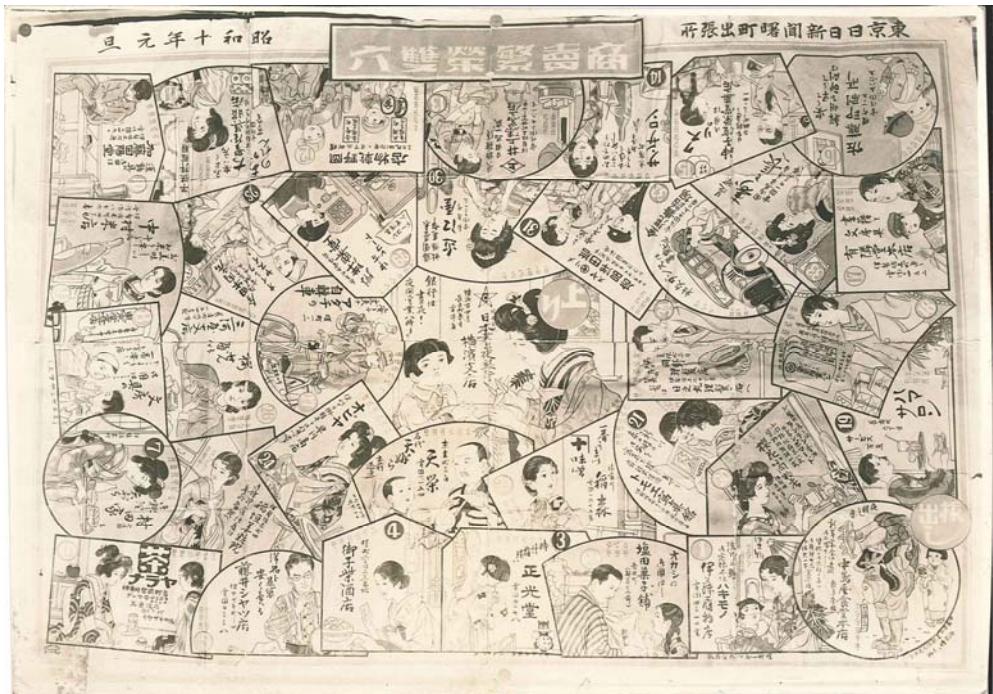
1 北方消防署火見櫓

1958(昭和33)年



2 商売繁栄双六(伊勢佐木の商店をマス目にした双六 ①)

1935(昭和10)年頃発行



3 商売繁栄双六(伊勢佐木の商店をマス目とした双六 ②)

1935(昭和10)年頃発行



4 根岸八幡祭(榊神輿)①

1985(昭和60)年



5 根岸八幡祭(榊神輿)②

1985(昭和60)年



6 根岸八幡祭(榊神輿)③

1985(昭和60)年



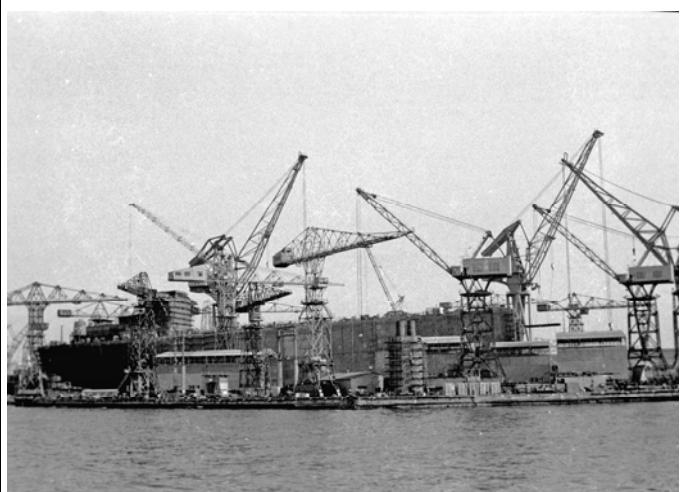
7 根岸八幡祭(榊神輿)④

1985(昭和60)年



8 根岸八幡祭(榊神輿)⑤

1985(昭和60)年



9 開発前と開発中の「みなとみらい」地区①
横浜dock(ドック)

1982(昭和57)年



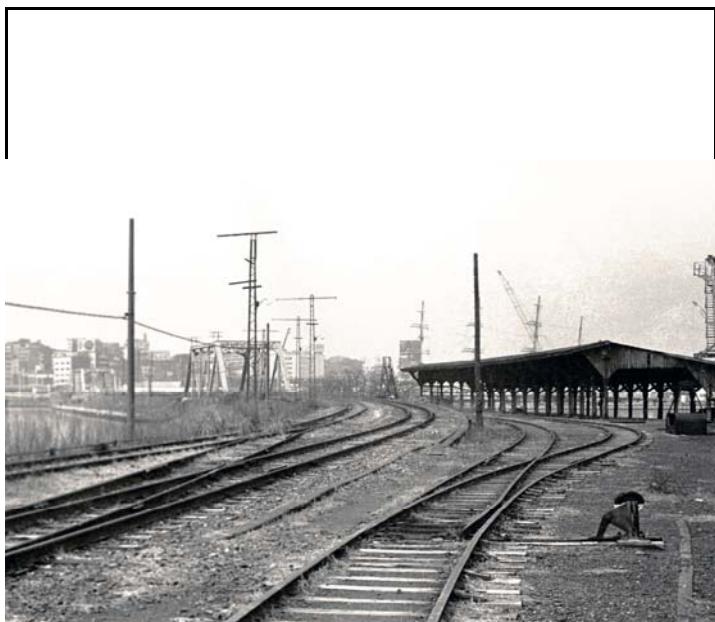
10 開発前と開発中の「みなとみらい」地区②
右手は県警本部

1984(昭和59)年頃



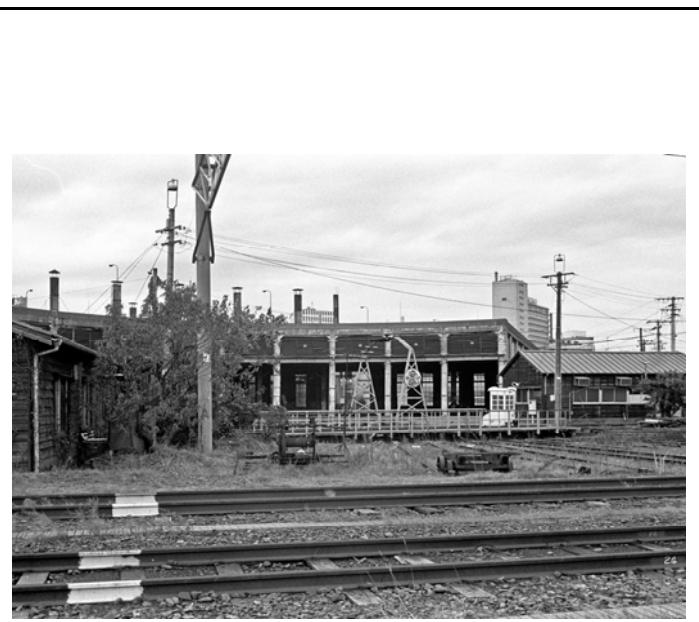
11 開発前と開発中の「みなとみらい」地区③
桜木町駅前から

1984(昭和59)年頃



12 開発前と開発中の「みなとみらい」地区④
汽車道廃駅

1984(昭和59)年



13 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑤
高島機関区

1984(昭和59)年頃



14 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑥
高島貨物駅正門跡

1984(昭和59)年頃



15 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑦
高島貨物駅

1984(昭和59)年頃



16 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑧
手前左は港湾局埠頭事務所跡、中央は赤レンガ倉庫

1987(昭和62)年頃



17 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑨
万国橋付近から汽車道方面

1987(昭和62)年頃



18 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑩
赤レンガ倉庫前

1987年(昭和62)年



19 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑪
インターモンチナナルホテル建設

1990(平成2)年



20 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑫
ランドマークタワー建設開始

1990(平成2)年



21 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑬
新港橋から

1992(平成4)年



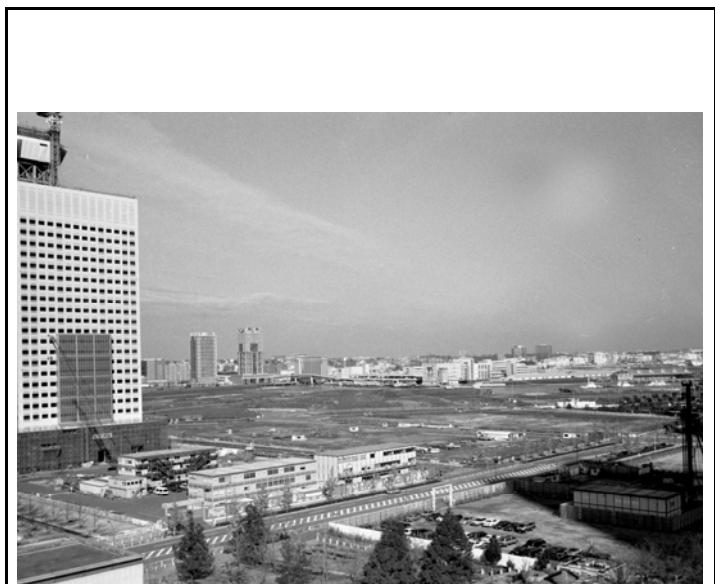
22 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑭
ランドマークタワーから横浜東口方面

1994(平成6)年



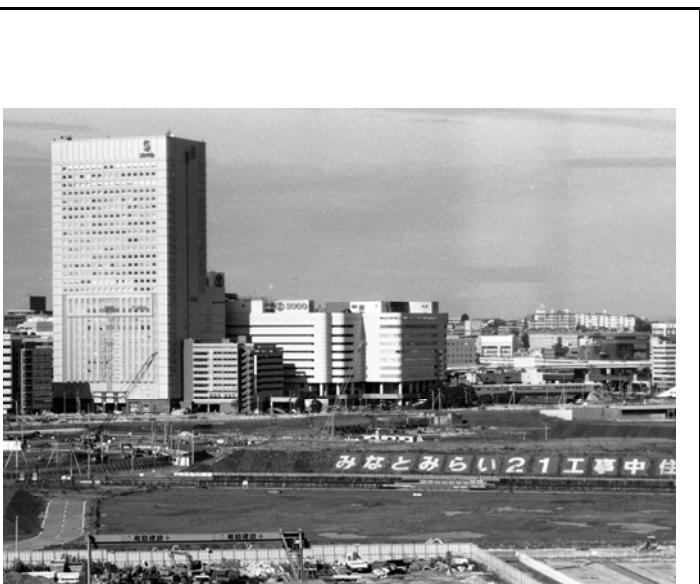
23 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑮
新港橋から

1997(平成9)年



24 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑯
横浜美術館から中央市場方面

撮影年不明



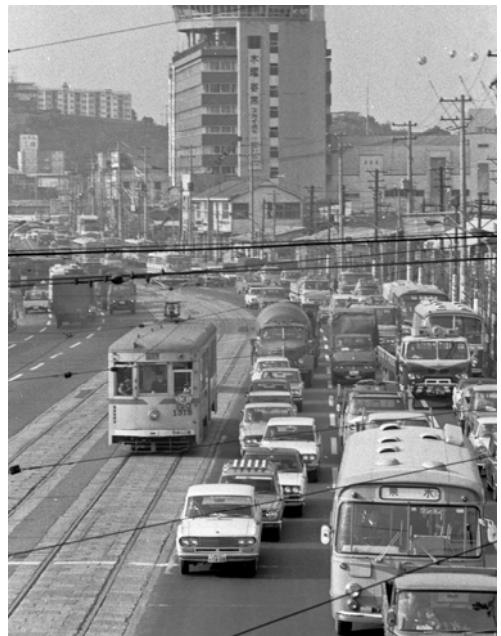
25 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑰
横浜美術館から「そごう」方面(望遠)

撮影年不明



26 開発前と開発中の「みなとみらい」地区⑯
横浜美術館から旧高島駅方面

撮影年不明



27 市電① 高島町付近

1972(昭和47)年



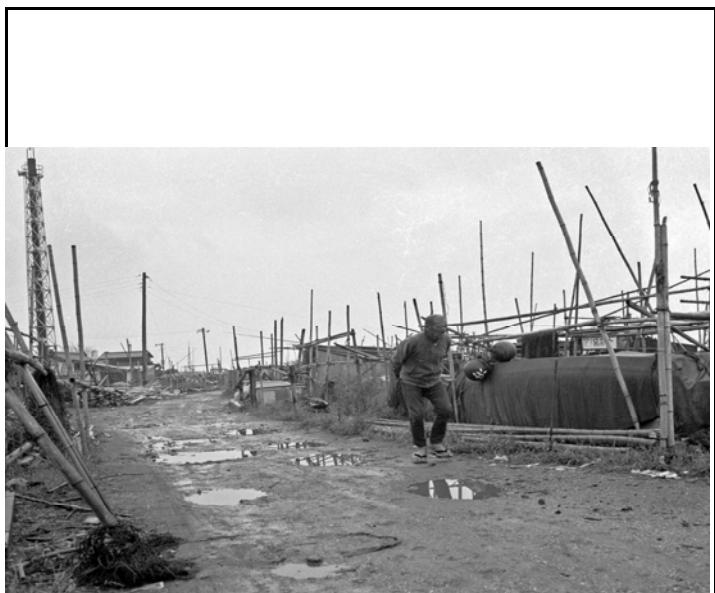
28 市電② 久保山電停(電車停留所)

1972(昭和47)年



29 市電③ 本町四丁目付近

1972(昭和47)年



30 西柴① 1970年

1970(昭和45)年



31 西柴② 1971年

1971(昭和46)年



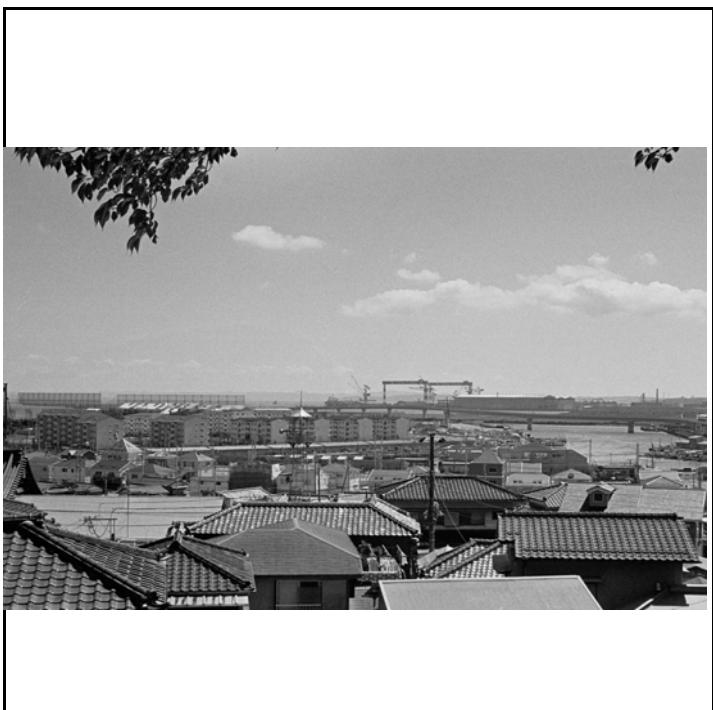
32 西柴③ 1971年

1971(昭和46)年



33 西柴④ 1989年

1989(平成元)年



34 西柴⑤ 1989年

1989(平成元)年



35 潮干狩り(JR根岸駅近く)

1950(昭和25)年



36 磯子小学校裏山、ステージ21が出来る前

1952~1953(昭和27~28)年頃



37 閑散としていた新幹線「新横浜」駅前

1970(昭和45)年4月24日



38 横浜港を出港する最後の移民船「あるぜんちな丸」
(大さん橋)

1970(昭和45)年3月3日



39 廃止直前の横浜市電(桜木町駅前の歩道橋から)

1972(昭和47)年3月25日



40 全盛期の横浜ドリームランド

1970(昭和45)年5月12日



41 大成功を納めた横浜博覧会

1989年(平成元)年7月23日



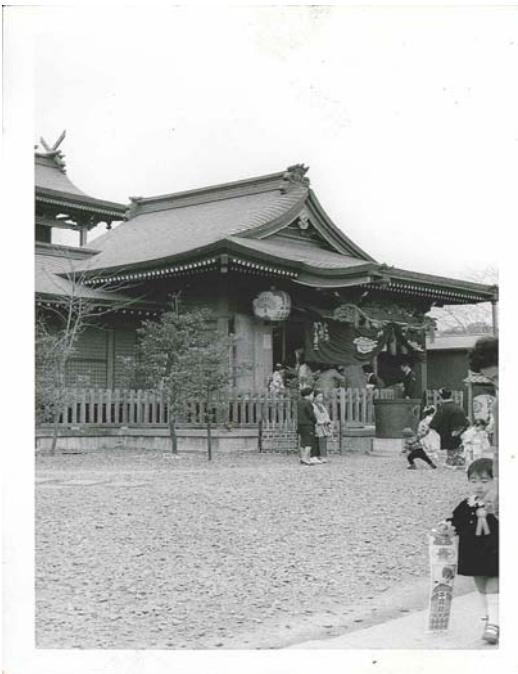
42 建設中のランドマークタワー

1991(平成3)年8月25日



43 ベイスターズ優勝パレードを激写！(横浜市役所前)

1998(平成10)年



44 浅間神社(浅間台小近く)

1969(昭和44)年



45 野毛山動物園(ゾウ)

1966(昭和41)年



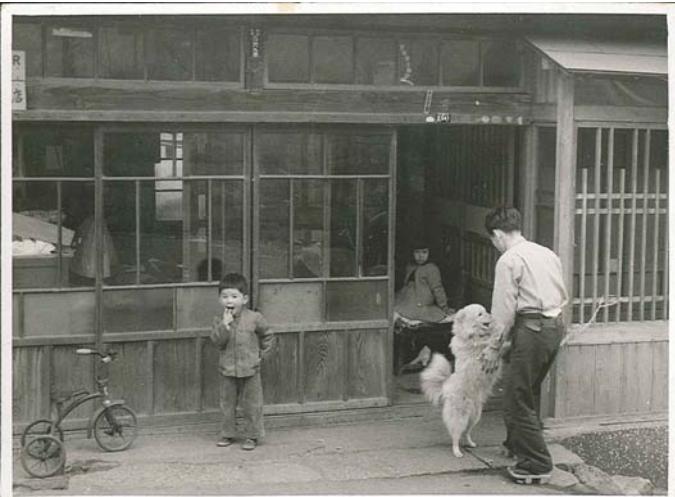
46 永川丸船内

1969(昭和44)年



47 石川町地蔵坂 靴店①

1957～1958(昭和32～33)年頃



48 石川町地蔵坂 靴店②

1957～1958(昭和32～33)年頃



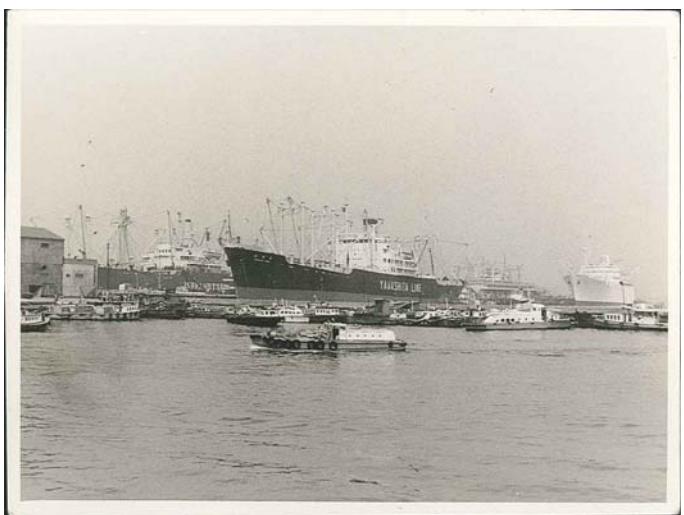
49 雪の日地蔵坂

1990(平成2)年



50 横浜港①

1960(昭和35)年頃



51 横浜港②

1960(昭和35)年頃



52 地蔵坂

1960～1965(昭和35～40)年頃



53 横浜博覧会①

1989(平成元)年



54 横浜博覧会②

1989(平成元)年



55 野毛山動物園(ラクダのつがるさん?)

1983(昭和58)年6月



56 野毛山動物園(ライオン舎前)

1983(昭和58)年6月



57 小机にてザリガニ釣り

1991(平成3)年9月3日



58 横浜スタジアム(中日vs太洋)①

1991(平成3)年9月16日



59 横浜スタジアム(中日vs太洋)②

1991(平成3)年9月16日



60 横浜での大雪①

1994(平成6)年12月2日



61 横浜での大雪②

1994(平成6)年12月2日



62 こどもの国

1985(昭和60)年頃



63 野毛山動物園(ホッキョクグマ)

1994(平成6)年11月9日



64 野毛山動物園(ゾウのハマ子さん)

1994(平成6)年11月9日



65 杉田線終点の「杉田」終点から中原方面を見る①

1967(昭和42)年7月



66 杉田線終点の「杉田」終点から中原方面を見る②

1967(昭和42)年7月



67 「白幡」付近を走る市電13番(杉田～桜木町)

1967(昭和42)年7月



68 「白幡」付近を走る市電8番(杉田～桜木町)
(屏風ヶ浦交差点を臨む、71の遠景)

1967(昭和42)年7月



69 杉田線廃止を告げる看板

1967(昭和42)年7月



70 「屏風ヶ浦」を走る市電（埋め立て前は、電柱の向こうは海だった）

1967(昭和42)年7月



71 「森」～「磯子」間を走る（三宅胃腸科の看板が見える）

1967(昭和42)年7月



72 プリンス山から料亭偕楽園を見下ろし、国電磯子駅などの埋立地、根岸湾を臨む（偕楽園の手前を市電が走り、埋立前は偕楽園の向こうは海だった）

1967(昭和42)年7月



73 プリンス山から料亭偕楽園、国電磯子駅などを臨む（偕楽園の手前を市電が走る）

1967(昭和42)年7月



74 プリンス山から市電を見下ろす。右中に司法書士合
同事務所の看板、右上に国電根岸線の車両。
(大きな建物は磯子会館・現在は建て替えで磯子区総合庁
舎となっている)

1967(昭和42)年7月



75 杉田線廃止を掲げて走る①

1967(昭和42)年7月



76 杉田線廃止を掲げて走る②

1967(昭和42)年7月



77 「磯子」から「間坂」寄りを走る

1967(昭和42)年7月



78 「間坂」と「葦名橋」間を走る

1967(昭和42)年7月



79 「葦名橋」で待機中

1967(昭和42)年7月



80 終点「葦名橋」で折り返す市電①
(市電全廃掲げられている)

1972(昭和47)年3月



81 終点「葦名橋」で折り返す市電②

1967(昭和42)年3月